

平成21年度 まちづくり座談会（日詰地区）

会場 中央公民館

日時 7月25日（土）午前9時30分～11時40分

参加者 9人

役場出席者 13人（町長、教育長、生活部長、総務課長、企画課長、土木課長、農林課長、農業委員会局長、長谷川主査、高橋主任、浦田主事、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

＝＝

総合計画の検証が行われているのか見えてこない。具体的には、えこ3センターから出た堆肥を利用しているのは、何%くらいなのか。ワインも、付加価値を高めている点はよいが、販売に力を入れないと、売れなければ意味がない。どれくらい売れているのか。また、水辺プラザの整備維持管理はどうなっているのか。クリーン運動は行っているみたいだが、一部の地域だけで収束しているのではないだろうか。自分も見回りを行っているが、自分がやらなければ今後誰が行うのか心配である。

目標に対して何%位進んでいるのか、それに対する問題点等の検証や取捨選択が行われているのか知りたい。

【農林課長】えこ3センターに関しては、これまでは堆肥作りに力を入れており、販売に関しては次のステップだったが、昨年頃から販路拡大に向けて対策を取っている。今年4月からは生産者認証制度を立ち上げ、紫波の堆肥を利用して作りましたというシールを配布し、店頭で野菜を並べ価値を高めている。また、ホームセンターでも堆肥販売を行い、売り上げも好調です。今後も、経費の節減、販路の拡大を考えながら進めていきたい。

紫波自醸ワインに関しては、まだまだ知名度が低いので、まずは地元の皆さんに飲んでもらうことを考え、西部地区から東部地区にかけて全戸訪問を行ってPRをしたので販売につながると思う。

町民の皆さんにも、県外の知り合い、知人にも紹介していただき、知名度を上げ、県外へも販売していきたい。

【土木課長】水辺プラザについては、ボランティアの皆さんのクリーン活動、見回りをしてくださっていることに感謝いたします。水辺プラザはまだ整備途中で、堤防の方まで遊歩道を広げる話もできています。今回のこともふまえて、検討していきたいと思います。

【企画課長】目標に対する結果が見えてこないという意見を踏まえ、経過報告、計画の見直し、対応について町民の皆様には伝わるようにしたいと思います。

新しい総合計画を策定するにあたり、これまでの9年間の総括が必要では。反省点、問題点を町民に公開してほしい。

【農林課長】総合計画の中には、10カ年の基本構想の下に、5カ年計画の基本計画があります。また、その下に実施計画というものがあり、毎年度見直しを行っています。アンケートや審議会、

ワークショップなどで住民のご意見も伺っています。どれほどの成果があったかなどは広報にも載せていますが、広報に載せたから町民の皆さんが周知しているものだとは思わずに広報活動を行いたいと思います。

【企画課長】半年以内に市民会議を開催し、総括を含めてお知らせしたいと思っています。また、今後広報で半年くらいかけて総合計画の成果を特集し、来年にはその特集をあらためて1冊にまとめ、全戸に配布することも検討中ですのでもう少しお時間をいただきたいです。

その際には、目標値と実績値、両方載せてください。目標に達していない場合、何らかの原因があると思う。それによっては計画そのものをやめることもあるだろうし、検討が必要になってくると思う。

誘致企業（ニチコン）がなぜ町から去らなければならなかったのか。10年以上前から土地の関係で地域理解がなかったと聞いているが、町の対応はどうだったのか？町民アンケートの結果を見ても労働環境、雇用問題に対して高い関心があるので、もっと努力してほしい。道路、建物など整備されているのに未使用のままにしてほしくない。

【町長】ここ3年間、毎年本社に伺っており、昨年も8月下旬に訪問し社長とお会いしているが、そのような話は全くなかった。ちょうどリーマンショックによる世界的な不景気の始まりのときで、岩手町工場の方に移るとい話を突然一方的に通告され驚いた。去年もおととしも、投資の話はしているが、土地の問題は全く聞いていない。一昨年、同社は10億円程度の投資をされており、行政措置で資金を町からも一部負担している。岩手町工場は設計部門があったため事業縮小の為、そちらに移転したようだ。10年前に話の出た土地の問題というのは、もしかしたら設計部門を作る補充敷地がなかった等の問題があったのかもしれない。それで岩手町に機械設計部門をもったのかもしれない。今後の誘致は、組立工場ではなく設計部門も持っているような企業を考えなければいけない。企業誘致に関しては皆さんの意見を聞きたい。町の基幹産業、農業生産物を活用できるような企業や、付加価値を持った企業を誘致すべきではないか。

企業誘致は、敷地はただにしてくれ、建物はこういうものにとというような、非常にハードルの高い要望が多く、10億円規模の投資が必要になる。

企業誘致だけを考えるのではなく、盛岡市や北上市で働く人向けの住宅整備など、住環境整備に力をいれるということも考えたい。子育て支援等、若い人たちが安心して住める町を作りながら、企業誘致も考えて行きたい。

【町長より話題提供】中央駅東口の開発は大きな課題となっている。東西を結ぶ地下通路を7億数千万円かけて整備する計画は財政難でもあり、地域の理解得て断念した経緯がある。ただ、日詰商店街と駅を結ぶ上で、対応を考えなければならない。西口の開発が進む中、東口の対応も考えていかなければならない。7~8億円をかけて地下通路を作る以外に、もう少し安価な方法で代替案はないだろうか、ご意見をいただきたい。

【企画課長】飯岡駅のように、東西を結ぶ通路はないが、東西どちらにも入り口があり、乗車が可能な駅になると、通路整備の費用は抑えられるが、飯岡駅は利用者が多いから、JRも人員配置をしている。紫波中央駅はそこまでの利用者がいないので、JRでは人を置けないそうだ。今後、西口開発によって駅利用者が増えれば交渉ができるので、JRとも密に顔を合わせて話を進めたい。

東西を結ぶ道路は、けやき通りを考えているのか。

【企画課長】土地所有者の問題もあるし、地下道を通すかもまだわからない状態なのではっきりとはいえない。

矢幅駅のような、橋上駅のようなスタイルと地下道ではどちらが安く出来るのか。

【企画課長】定かではないが、矢幅駅は、14 億円くらいかかったと聞いている。そうすると、地下道を掘るより高くなってしまいます。

【土木課長】紫波中央駅は物理的な問題もあり、矢幅駅のような形を取ろうとすると、新幹線の上を通さないといけないので、もっと費用がかかる。紫波中央駅は在来線と新幹線の線路が近く、新幹線が低い位置にあるため、工事が難しい。また、地下には新幹線の地中梁という基礎があるため、掘ることも出来ない。何をするにしても、JR の了解がなければ出来ないし、町がどうにかできるものではないのでお約束は出来ないが、いろいろなご意見をいただきたい。

核家族化が進んでおり、共稼ぎ夫婦にとっては、大変だと思う。同居していても、何かの用事で孫を預けたいと思ってもだめな場合も多い。若い人たちが子どもを安心して預けて働けるようにして欲しい。一人で一日中子どもと向き合っていると、ストレスもたまったりすると思う。虐待のニュースとかもよく耳にするが、紫波町はどのようなのだろうか。

子育て支援に対する、町の対応を教えてください。

【生活部長】保育所の数自体は紫波町が少ないわけではなく、今の法律では働いている人向けの枠なので入れない人もいる。ただ、町では紫波町型児童館ということで、保育所に準じた児童館を設置するなどの対応を行っている。また、日詰幼稚園が認定型保育園となり、町も支援を行っている。虐待は若干ではありますが、紫波町でもあります。ただ、内容としてはストレスというよりは、親としての資質に欠ける場合が多いです。

小学校前の子どもを夜、家において、遊びに出かけてしまうなど、虐待といわれる事例 10 数例あります。訪問指導を行い、あまりにひどい場合は、子どもを施設に送る等の対応を行っています。町では 1 年に 250 人ほど子どもが生まれていますが、保健センターや子育て支援センターで細かいケアをするようにしています。

【町長】西口開発の中で、図書館以外に、子育て支援センターを中に入れて行きたいと考えている。紫波町に若い親が住みよい環境にするのが望ましい。子どもを駅前で預けて、安心して働きにいけるように、万が一子どもさんが体調を崩しても、対応できる小児科等が入るとか、キッズ向けのショッピングモールなどが入ってくれるように進めていきたいと考えている。

これだけ住民の願いを聞き入れる市町村はないと思う。実家は盛岡市ですが紫波町に住んでよかったと思います。(紫波中央駅)東口は子どもたちの通学を考えるとあればいいのだろうなと思います。

子どもたちが紫波中央駅のスペースが好きで、別の高校に行った同級生と一緒に受験勉強に利用しています。通学経路に無料で勉強できるスペースがあるというのは貴重です。新設される図書館にもそういうスペースがあればいいと思います。

総合計画は、あまり具体的に計画すれば 10 年後、実体に合わないこともあるかと思いますが。住民はどうしても目先のことばかりにとらわれがちなので、様々な立場の専門家の意見も聞きな

から計画してほしいです。

【町長総括】現計画の検証をしながら、新しい計画を立てていくことはとても大事なことです。新たな目標数値、今までの検証については機会を見て住民の皆様にお知らせしたいと思います。エコ3センター、ワイナリーの是非についてですが、農産物の安全性が問われている現在、エコ3センターの製品は好評で、生産が追いつかないほどです。ただ、採算はどうかというと、コストが高くなっています。一番の課題は電気料削減です。

国土交通省では五大ダムに流れ込む、流木や土壌に頭を悩ましていましたが、去年からエコ3センターで受け入れて堆肥化しています。また宮崎から先生を招き、発酵による栽培方法を取り入れ、果樹・野菜を作ろうとしています。循環できるようなシステムの構築を行っており、地域に還元できる施設になるのではないかと思います。

ワイナリーについては、生産者と一緒に作り上げ、付加価値を付けて販売していきます。ワインの販売拡大については、まずは町内の皆さんに知っていただき、そして県内、東京とシステムを形成したいです。7~8万本が生産の限界だと思われます。現在は4万本ですが、5万本販売しないと採算があわないので、平成22年度で5万本の成果をあげ、利益の第三セクターにしたい。盛岡で自醸ワインのタベが行われ、5年目でこれだけの味を出せるのは将来期待できると好評を得ており、将来的には民間に経営していただきたいと思っています。

公民連携については、3回、地域懇談会を行い、ご意見をいただきました。議会と議論しながら計画をしていますが、図書館建設は今年度から、本格的に計画を立案してきながら行っていきます。町は人材育成を最大の課題にしていかなければなりません。小学3年生から英語学習をスタートしていますが、来年度から全国で実施、町は5年前から行っています。文部省は紫波の例を見て実施を決めたようです。紫波中央駅前の開発についても、子どもたちのため、人材育成のために情報交流機能を備えた図書館を第一に建設し、環境を整えて行きたいと思っています。図書館よりも庁舎建設が先だという声もありますが、人材育成のためにも、最初に取り組むのは図書館であると考えています。

サッカー練習場に関しては、競争相手はたくさんいますが、駅を活用した練習場、サッカー場だけではなく、西口を全体的な発展計画をもって作り上げるということに、日本サッカー協会でも、関心をもっていただいております。最優先で取り組んでいただけるだろうと感じています。

一人当たりの公債残高は県内一低い数値です。負債は少しずつ減ってきています。下水道整備に関しては、100%のつもりで整備を続けてまいりまして85%まで進んでいます。下水道を掘るのには1mあたり10万円かかるため、100m掘るとなると一千万円かかる計算であり、今後は、離れた地区の15%に関しては、浄化水槽の設置等で対応していきたいと思っています。

他に引けを取らないようなすばらしい暮らしやすい町づくりを進めていきたいと考えています。新しい計画についてもできるだけ多くの皆様のご意見を伺いながら、策定していきたいと思っておりますので今後ともご指導をお願いいたします。

平成21年度 まちづくり座談会（古館地区）

会場 古館公民館

日時 7月25日（土）午後1時30分～3時40分

参加者 22人

役場出席者 11人（町長、産業部長、町民課長、都市計画課長、水道事業所長、企画課長、長谷川主査、中島主任、沼田主任、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

=====

古館公民館の建設等、施設を建てるのはいいことだが、まずは下水道などのインフラ整備が先決ではないだろうか。中陣地区だが、昨年の夏までは下水道整備の話が進んでいたはずなのに、今年の3月に経費のかからない合併浄化槽が望ましいという話になった。下水道なら10年先になると言われた。合併浄化槽を入れたら、その開発は終わり、下水道が整備されることはない。町の中で地域格差をつけないで欲しい。こちらの地区は、病院もないし、水害もあって大変だ。まずは建物より、インフラ整備を行って地域格差をなくしてほしい。

【企画課長】次期総合計画にも関わってくる重要なお話ですので、よく検討したい。

昨年7月に行った町民意識調査のアンケートの結果は公表したのか？実施人数は？

【企画課長谷川主査】まだ行っていません。座談会等で説明しています。実施人数は9687人です。

今度、8月に行うアンケートは、なぜ3千なのか？前回9千人に対して行っているのであれば、今回も3千人といわず、9千人以上やるべきでは？去年と状況も変わっているのだし、同じ規模でやるべきではないか？

【中村情報政策室長】今回のアンケートは、2年に1回行っている満足度調査であり、全世帯に送付しているものです。なぜ今回3千人にしたかということ、世帯への送付だと、どうしても世帯主の方からの回答になりがちですので、各年代からのご意見をいただきたいということで、高校生から70歳代までを満遍なく無作為抽出したものです。各年代の全体の意見を反映するために抽出した結果、3千人になりました。

今までの満足度調査自体、何を言っているのかわからないものも多いし、もっと具体的なものに規模を多くして、毎年多くの人数に配布して意見収集を行ったほうがいいのではないか。

【中村情報政策室長】今回は初めて年代別ということ意識したものなので、次回は2年に一度ではなく毎年行うとか、人数も増やす等、検討したい。

【企画課長】持ち帰りとして、検討したいと思います。

アンケートの設問自体、作意的、示威的と思われぬようにお願いしたい。

都市計画に関して、古館地区に関しては入っていない。古館地区全体の展望を知りたい。ぜひ、古館地区まで含んだ全体の計画を立ててほしい。ますます利便性が悪いものになってしまう。

田んぼのあとが宅地になったため、水が溢れて水害が多いように思う。川そのものの排水能力が農業基準なので水が溢れる。新しい総合計画には水路についても考えて欲しい。

また、国道4号線のつながりのところで混雑するのに信号がないところが多い。町道の両脇の地権者の問題や、国土交通省との協議も必要だと思うので、総合計画に組み入れて欲しい。

【都市計画課長】都市計画道路に明確な位置づけがないということですが、都市計画マスタープランについて、総合計画の見直しと合わせて検討していきたい。道路に関しては、都市計画というより全体的な道路整備の中の一つとして、考えていただきたい。

新たな住宅地が完成したことに伴い、県に要望して赤沼川にポンプを整備しました。整備後の豪雨では、14年度のときのような大きな被害はありませんでした。ご理解いただきたいと思います。(過去の水害区域の対応について説明したものを。提案を受け止め、水路についても考えていきたい。)

道路に関しては町道側を整備することは可能ですが、国道側の右折レーンを整備するには難しいというところまで話が進んでいます。町道側だけ整備するとすると、信号の移設など関連する問題があり、その辺の経費の見積もりを行っている状態になっています。

人口の割に病院が少ない。入院ベッドを残して欲しいし、作って欲しい。財政問題もあると思うが、県とも話し合いながら検討して欲しい。

地域創造会議の話し合いについて、性格と実態を知りたい。公民館が主体なのか、役場なのか、意見を出しても取り上げられたのかどうか分からない。市民会議について、5分科会に分けるのに25人では少なすぎないか？最低でもそれぞれ10人ずつは必要ではないか？みんなの意見の吸い上げ方を考えて欲しい。町民に何が必要なのか。

【町長】医療問題に関して、一週間前、23団体から意見を伺いました。終末期医療をどうするかを深く考えなければいけないという話が多く出ていました。私の考えでは、県立病院に委託するかとか、医師を見つけてお願いするか、講師をお願いして、見てあるくなどして勉強中です。対応策を調べるために、1年間待ってくれと知事をお願いしたのに、一方的に切られてしまったので、今の状況になってしまったが、最終的にはどうすればいいのかこれから勉強していくことになっているので、ご理解をいただきたいと思います。

地区創造会議についてですが、それぞれの地区の文化や歴史を育てていくことにより、町全体の歴史や文化を育てていきたいと思っています。地区の将来はある程度の審議会を

作り、地域でも少しお金を出して、町でもお金を出して、地域は地域としての意見をしっかり持ちながら、足りないところは町がフォローするような形がこれからの地域づくりの形ではないかと思います。町が中心になって開発を行ってしまうと、どうせ町がやると思われてしまいます。地域が主体になって、町がフォローする形にして、地域の歴史と文化を育てていきたい。町が途中で投げ出すことはないので、ご理解いただきたい。

【企画課長】市民会議について、人数が多いほうがいいのはごもっともです。考えさせてください。ボランティアという話もありますが、何度も足を運んでいただくことになるので、いくらかの謝金も考えています。予算の問題もありますので、検討させてください。意見集約の仕方についても、ご意見を真摯に受け止めまして、よりよい方法を検討していきたいと思います。

(古館)公民館いつから着工するのか、図面、設計図できていれば見せてほしい。管理についてはどう考えているのか。コミュニティーセンターも兼ね備えると聞くが管理は役場で行うのか。

【都市計画課長】業者からの提案を受けている状態で、まだ図面等は我々も見えていないです。年度内完成を予定していることまでは聞いています。

【町長】大きな変更は出来ないが、レイアウトの希望など、地域の要望を聞くことになっているので、後ほど公民館長を通して意見を伺うかと思います。2階は子どもの家を移設予定になっています。せつかく作るものですので、皆さんの意見を入れていきたいと考えています。

すこやか号のバス路線を見直して欲しい。

【企画課長】公安等の承認も必要になるので即答は出来ませんが、平成15年から始めたもので、そろそろ見直しも必要な時期だと思います。よりよくするためにご意見をいただいて検討させていただきたいと思います。

紫波町の共同墓地作成を次回の計画で考えていただきたい。

【町長】共同墓地に関しては、私も必要であるかなと考えておりました。検討していきたいと思います。

下水道未設置が一角残っています。議員さんからもいい回答をいただいていない。設置される可能性はあるのか？古館駅前数十軒はあると思います。

【企画課長】担当がいないので即答できかねるので、場所をお聞きして、調べてから担当課から直接ご連絡いたします。

【町長】私も存じ上げていませんでした。調べて直接回答するようにいたします。

生涯学習課は町の方であったほうがいいのではないかと。学校のことは教育委員会でかまわないと思うが、生涯学習課は公民館とも関わるし、地区創造会議とも関わってくるところだと思うので、教育委員会のほうにあることはないと思う。

赤沼川について、ポンプで対応できないような規模の降雨があった場合、放流点は、50～100m下流側にしたほうがいいのではないかと。

【町長】生涯学習については、町長部局におくか、教育委員会におくか、これからどういう形にしていくべきなのか検討中です。そのときは、またご意見をいただきたいと思えます。

【都市計画課長】担当課がないので、代わりにお話しします。詳しいデータは手元にはないのですが、北上側水位が高くなると排水できないので、ポンプで揚げるしかありません。

どんなにこっち(内水側)で降っても、北上川水位さえ低ければ溢れることはないので、単純に放流点を変えるだけでは解決にはならないのです。また、岩崎川は堤防が出来上がってしまっているの、この放流点を変えようとすると、経費の問題や県との協議になってしまいます。詳しくは、土木課の方から(回答を)出してもらいます。

介護の要支援者対応の要綱を作って欲しい。福祉課から名簿をもらっているが、区長、社会福祉協議会での共有について、個人情報等の問題もあるので、対応マニュアルもふまえた要綱を作って欲しい。

【企画課長】早急に作成したいと思います。

【町長総括】下水道にするか、浄化槽にするか、地域の皆さんと協議を進めてきました。紫波町における下水道のあり方について、各地域の意見を集約し、ご理解を得るのであれば集合処理施設ではなく、合併浄化槽を設置し、町が管理して、集合施設と同様の使用量をいただくというシステムを考えています。

国全体でも下水道のあり方、浄化槽の設置について、いろいろ検討されています。公債費比率が県内一高いといわれている紫波町ですが、一人当たりの残高比率でいえば滝沢と並んで県内一低いという数値が出ています。公債費比率を減らしていくためにも、公共ではなく、合併浄化槽で対応していきたいと思っています。下水道普及率は85%で県内でも3～4番目の値になっています。早急に100%にしていくためには、合併浄化槽で整備することにご理解いただきたいと思っていますので、地域の方とも話し合いを進めていきたいと思っています。

財政についてですが、公債費比率について大きな課題になっていますが、残高比率については県内一低いとはいえ、一般公債費だけではなく全体的に考えていかなければならないものです。例えば、古館公民館につきましても、一回に負担をかけるのではなく、10年間、少しずつ公債費にあてていくなどのシステムを取り入れています。公債費の残高は100億円ちょっとですが、かつては155億円でしたので、だいぶ減らしてきたもので

す。インフラ整備が一番大切だと思いますので、少ない財源でどうやって満遍なくまちの整備を行うかを検討しています。駅前開発についても、公民連携を取り入れるなどの対応をしています。

新しい、総合計画に関して、多くの町民の方に参加していただきながらご意見を取り入れていきたいです。今回話のありました、墓地の問題、河川、道路整備の問題等を議論しながら、次期の開発計画に盛り込んでいきたいと思います。本日は貴重なご意見をたくさん出していただき、ありがとうございました。

平成21年度 まちづくり座談会（長岡地区）

会場 長岡公民館

日時 7月27日（月）午後7時～9時

参加者 15人

役場出席者 12人（町長、副町長、経営支援部長、長寿健康課長、税務課長、学務課長、企画課長、長谷川主査、藤根室長、高橋堅室長、熊谷主査、小田中主任）

質 疑 応 答

＝＝

第1次の総合計画の総括的な説明があったが、数字で出てきたのはごみ処理費だけ。ほかは具体的な数値が示されていない。10年間の計画を進めてきて、どの程度成果が上がっているのか数字でないと分からない。

まだ平成20年度なので、総括は終わっていないと思うが、成果について、別の機会に数値を示して報告して欲しい。

第2次総合計画の策定について、第1次の反省というものが含まれていない。第1次の総括・反省の上に第2次計画は策定されるべきであると考えます。

【企画課長】第1次計画の成果については、紫波町論点バンクというものを職員で作成し、取りまとめているが、今回の座談会で数値を示して説明するのは時間的に無理があるので、今回はかいつまんで説明した。

今後、分析した内容については紫波ネットに特集を組んで、毎号、これまでの取り組みについて分野ごとに総括した内容を報告していきたい。最後には特集記事を冊子にまとめてお配りしたいと考えている。

これまでの10年を振り返っていただいて、何が足りないのか、今後どのような方向で進めていけば良いかということは、先ほど説明したアンケートの結果等から見えてくると思うが、具体の事業に取り組んでいく場合は、実績を数値で押さえて、3年間の実施計画に生かして行きたい。今回は基本構想のための座談会を開催させていただいたが、今度は基本計画を考えていかなければならないので、それに照準を合わせて、今後半年くらいの間で実績について皆様にご報告していきたい。

しわネットで報告という話があったが、誰が読んでも分かりやすい内容でお願いしたい。

紫波中央駅前の整備イメージ図について、駅前の駐車場は、現在、場所も近く料金も安いため大変利用しやすく、紫波中央駅前の魅力の一つとなっている。計画によると、今の駐車場を無くして、調整池あたりを新たな駐車場にと考えているようだが、収容台数・料金体系等はどのようなになるのか？

また、フットボール場などが整備されると、駅利用者以外の利用も多くなり、駅利用者が駐車できないという事態にもなりかねない。

【企画課長】資料に、紫波中央駅東口構想というものがありませんが、駅東口をJRに要望して整備していただいて、併行して駐車場を町で整備したいと考えている。（ユニバースの向かい）

実質的には、今の駐車場がなくなるということですか。

【企画課長】事業棟 B 棟が平成 24 年度完成予定ですので、今の駐車スペースがつぶれてしまうというのはご指摘のとおり。当面は、資料にある第二期工区を駐車場として利用していただくことになる。事業が進めば当然、駐車場の収容台数が不足してくると思われるので、東口の方にも駐車スペースを用意していきたい。

今はあれだけ利便性が良いのに、整備が進むことによって、評価が下がったり苦情が出たりしないように、工夫して進めて欲しいという要望です。

【企画課長】朝夕は鉄道の下で渋滞が発生しているのも、駅東口をとという話になっている。ユニバースについても、西と東双方からの来客によって渋滞するという話も聞いている。

東口の実現性はどのくらいなのか。進捗状況は？

【企画課長】東口は町としての構想にとどまっている。JR に打診はしていない。
要望等、早く進めたほうが良い。

若者の意見も、座談会で取り入れられるようにしたほうが良い。

座談会には、質問が多くなっても良いから、大勢が出席するようにしたほうが良い。

【企画課長】行政区長さん、公民館長さんへ直移文書で依頼し、班回覧もさせていただき、手立ては講じているつもりだが、結果的には参加者が少ないので、より良い方法を検討したい。

小学校・児童館の統廃合問題について、町として今どういう考えなのか？統廃合に向けて具体的にはどのような問題があるのか？

どうしても紫波中央駅と日詰地区が議題の中心になるが、そこから離れた長岡地区などでは、矢幅駅の方が身近に感じる。中央から離れた地域のこれからのあり方について、どのような構想があるのか？

【学務課長】小学校・児童館の統廃合問題について、小学校の方だけ申し上げますと、中央部は 400～600 人という児童数だが、その他の地区は少ない。その中でも彦部小学校だけ複式学級が生じている。平成 22 年以降、彦部小学校以外にも川東地区、川西地区で複式学級が増加すると予想している。

そのような中で小学校の統合という話が出てきているが、小学校というものはその地区のコミュニティの核となる施設であり、災害時の避難場所にもなっていることから、統廃合は考えていない。皆さんの意見を聞きながら検討する。

児童数に応じて教職員数が決まってくるから、児童数が減れば複式学級という形を取らざるを得ないと思うが、そういう学校が増えてきても、総廃合はせずに複式でやるという考えなのか？

【学務課長】2 つの学年を合わせて 16 人を下回る場合は複式というきまりがある。1 クラスに一人教員が配置されているわけだが、彦部の複式学級の場合は一人の教員が見ている。ただし、平成 21 年度については、県から講師が派遣され、二人体制となっているため、今後複式学級が増加していった場合もこのような対応をしていきたい。

【経営支援部長】保育所・児童館については、紫波東部地域は保育所 1 箇所、児童館 3 箇所があるが、子どもが少なくなってきたり、施設の老朽化も激しいため、あたらしく整備しなけれ

ばならない。そのため、地域の皆さんと話し合いをして整備について検討しなさいという指示は町長から既に出ている。福祉課の方で今後各地区を回って皆さんからご意見を伺いながら、どういった形がよいのか、検討していくことになる。

小学校の統廃合は現在のところ必要なしと判断しているが、今後皆さんの意見を聞きながら検討を続けるべきだと考えている。

紫波中央駅と日詰地区だけが議題にのぼるという話については、協働の町づくりということで、各地区で地区創造会議を開いてビジョンをまとめてもらっている。長岡地区は非常に活発に活動していただいているが、今後、今度の新しい計画の中に地区の方向性を盛り込むということを考えている。

農業の問題とか林業の問題とか、個別の分野については、産業なりそれぞれの分野の計画に掲載しようと思う。

私の経験からすると60数年前、自分が遠山分校に通っていた時に複式学級を経験したが、下級生の面倒を見ながら授業を受けるため、授業に集中できず非常に苦勞をした。

また、長岡地区は野球などスポーツ少年団の活動も活発であるが、活動を行うにはある程度まとまった人数が必要である。先ほどの回答では小学校の統廃合は考えていないということであったが、川東地区の4小学校の統合も考えていくべきだと思う。

【企画課長】ご指摘いただいたとおり、スポーツ少年団の活動を維持するためには、ある程度まとまった人数は必要ではないかと感じている。ご指摘の主旨を踏まえ、町としても検討を重ねていきたい。

【経営支援部長】学校の問題は、歴史があって地域とのつながりが強い一方、今のようなお話もある。難しい問題であるので、皆様から色々な機会にご意見を出していただいて、みんなで検討していきたい。

複式学級について、そう遠くない未来、長岡小学校でも複式学級が発生するかもしれない。それを回避するのはやはり人口。便のいい中央地区にばかり人口が集中し、周辺地区は取り残されてしまう。今、紫波中央駅周辺に計画しているものを長岡地区に持ってくるのか、何か方策を考えないといけない。

基本構想の中で、東部地区にも人口を増加させるような、夢を持たせるような計画を盛り込んでほしい。今日の説明の中では、将来像が全然見えてこない。具体的な内容をもう少し浮き上がらせて、東部地区に良い話をしてもらいたい。

先ほどから話の内容が非常に具体的だが、今日の座談会の目的は、基本構想をどう思いますか、提案してくださいということだと思っているがどうか。

町内部ではきっちり議論されているのだと思うが、「高齢者にやさしい町」等非常に抽象的。具体的にどういった町かと問われたら中々答えられない。色々な意見を皆さんお持ちだと思うが、もしかしたら自分の意見が既に議論された内容に含まれているかもしれないと考えると発言できない。今回の内容では抽象的過ぎるので、町がこれまで議論してきた内容をもう少し具体的に示して欲しい。

また、「この町に住んでよかったと実感できる町」とあるが、同じ町でも地区によってばらつき

がある。「この町のこの地区に住んでよかった」としてもらわないと。特に長岡は高齢化が進んでいる。若者たちは、この地区は自然環境が素晴らしいからそのまま住めば良いと思うのだが、外に出て行ってしまう。「このまちのこの地区に住んでよかったと実感できる町」にするにはどうしたらよいか考えてもらいたい。

それから基本計画を作るときに、色々な施設を作ると思うが、基本構想をマトリックスにして、ここの施設を作ったら基本構想のここここが良くなりますということが分かるようにして欲しい。

【企画課長】「この地区に住んでよかったと思える町」ということでしたが、地区創造会議で地元の良さというものをきっちりと検証しながら、それを伸ばしていく、その後押しを町がしていくというのがポイントになると思うが、この地区で既に作っているビジョンを総合計画の方に生かしていきたいと考えている。

たとえば「高齢者に優しい町」とあるが、中央部の人たちは近くに病院があり、交通の便が良いからすぐに行けるが、長岡地区ではそうはいかない。そういった事情も踏まえて考えて欲しい。

【企画課長】今後、現在運行しているコミュニティバスの本数を増やすというようなアイデアが出てくると思われるので、そういったものを組み立てていくことになると思う。「地区に住んでよかった」というのが重要なキーワードになると思う。

運動公園の観覧席を整備して、もっと観覧客を収容できるようにしてはどうか。

公民館で防災について話があったと記憶している。そのとき、地元の方々が災害について関心がない感じがした。8/23の防災訓練にも参加してもらいたいという話を皆さんにしたが、意識が低く積極的ではない。長岡地区は浸水被害が多い地区であるので、災害時に地区でお互いをカバーできる組織・システムについて、防災計画だけでなく総合計画でも、その地区にマッチした内容を検討する必要があるのではないか。

【経営支援部長】防災意識を高めるという意味で、啓発活動について計画に盛り込んでいきたいと思う。また、今までは比較的災害に強い町という認識だったが、平成14年と19年の教訓を生かして、近年は防災のために色々手を打っている。

特に、ここ2年で、4箇所、自治公民館単位で自主防災組織が誕生しており、町も資機材を提供し、支援している。長岡地区でも、自主防災組織を立ち上げていただくというのが1つの解決策ではないかと考えている。

8/23の総合防災訓練についても、地域の方々に見ていただき、参加していただいて、防災意識を高めていただきたい。

岩手日報で、大規模地震が起きたときに孤立する集落が、紫波町に9箇所あるという記事を目にした。その中に長岡地区の集落が含まれているのかを教えていただきたい。

【経営支援部長】孤立する可能性がある場所として、山屋、大志田、横沢、ほかには佐比内の方にも何箇所かあると思う。

町道の木の刈り払いを行政区長会議の中でお願いしたが、このたび実施していただいてありが

とうございました。

大志田地区に水道がない。簡易水道があるが鉄分が強い。9~10軒、湧き水を使っている。なんとか水道をお願いしたい。

【企画課長】大志田簡易給水施設の水質が悪いという内容だと思うが、この場では即答できないので、持ち帰って、担当から回答させます。

新しい総合計画の中で、計画づくりのこれからということで6項目挙げられているが、地区創造会議の中から出てきた「長岡ゆめプラン」はどれに該当するのか。

また、「長岡ゆめプラン」の中には、まったくの夢の部分もあれば、行政の協力で実現できる部分もある。町としては、地区創造会議で地域からでてきた意見をどの程度吸い上げてくれるのか。

【企画課長】自分たちでできる部分は自主的に皆さんでやっていただくということになると思うし、自分たちではできない部分については、町の方でどのような形で援助できるのかつめていくことが重要だと思う。

地区創造会議で出たビジョンについては、基本構想よりも次の段階の基本計画の段階で反映させていくことになるのでは。ただし、市民会議などで、地区創造会議の位置づけなども検討されるとイメージしているが、ビジョンをもっと早い段階で反映すべきだという意見が出れば、早い段階から検討することになると思う。

ただ、現段階で全ての地区でビジョンが策定されているわけではないので、うまくバランスをとりながら、検討を進めていきたい。

11区の区長をやっているが、問題が発生している。町が住民の意見を無視したやり方をしている。国道から長岡線に入る道路に鉄板を敷いているが、業者に聞くと砂利採取のためにやっているという。

東部改良区に聞いてみたら、2年計画で砂利採取のために許可をしたとのこと。許可をするためには市町村の承諾がなければならないはずだが、問題は農道として整備した道路なので、ダンブが往来できる構造になっていない。道路にはパイプラインが横断しているから、非常に心配している。

改良区が言うには、パイプラインが損傷した場合には業者が直すということだったが、直せばよいという問題ではない。許可の取り消しは無理だろうから、路線を変更して欲しい。我々は当該地区の水田は「美田」であると思っているが、そこが荒らされるのではないかと非常に心配している。

業者に地元の説明会を開いてもらうことにしたが、地元の理解を得てから事業を進めるのが当たり前。町も、許可する前に状況をよく確認してから許可するかどうか判断して欲しい。

【副町長】たしかにそのような届出がでている。地元の住民にきちんと説明して、理解を求めた上で事業着手をするようにという回答をしている。すみやかに今のお話を担当課と詰めたい。

また、決して田んぼを荒らすということではなく、砂利を採取することにより水田がより良くなるということもあると聞いている。地権者の方はそのような考えで取り組んでいるのではないかと思うので、その辺も含めてきちんと確認させていただく。

【町長総括】いろいろとご意見をいただきましてありがとうございます。

パークアンドライドについてのご意見ですが、これにつきましてはまちの大きな趣旨です。公共交通を活用して、二酸化炭素の削減を図るということで、町の大きな循環型の起点でありますので、今の台数より減らすことのないように、今後は東口にも駐車場の設置を考えています。調整池の上部を駐車場にしたいと考えています。それには2億円かかるといわれていますが、何らかの方法を考えながら調整池も活用して十分な駐車場の確保をしていきたいと思っています。

また、サッカーの練習場が入れば5万人から10万人の活用があるだろうといわれているので、駅の隣接地にサッカー練習場が出来るというのは、東北本線沿線上の小中学校もかなり利用すると見込まれています。公共交通の活用とともに駐車場も完備しながら開発を考えていきたいと思っています。

小学校と児童館の統廃合についてですが、学校を地域からなくすということは地域のコミュニティが崩壊していくことになるので、学校だけは残していきたいと、教育長とともに考えています。複式学級については支援を考えて、個々に勉強ができるような体制を整えたいと思っています。長岡地区は横ばいから若干増加の傾向がありますので心配はなさそうですが、ほかの地区では人の減少があり危険な状況です。野球チームがひとつも出来ないような状況もありますが、地域から学校をなくすというのは地域住民にとっては大きな悩みの種になりますので、なくしたくないと考えています。

ただ、児童館、保育所に関しましては、早朝や夜間の延長保育の要望に4つの保育園でこたえていくのは困難です。共稼ぎの時代ですので、延長保育や一時預かりを行える態勢を整えていきたいと思っています。父母の会の皆さんと話し合いながら、統廃合を行い、1カ所か2カ所にまとめて運営していきたいと思えます。

長岡地区は矢巾町に近いので、矢巾町に買い物にいかれることも多いと思えます。日詰商店街と紫波中央駅をリンクしながら、合併前の9つの地域が紫波中央駅とどういにかわりを持って発展していくべきかを考えていかなければならないと思っています。長岡地区に住宅造成するなどはインフラの問題、生活環境の問題があるので、長岡地区に関しては自然を活用した、地域を守っていくのが地区創造会議ではないでしょうか。この地区に住んでよかったと思える町にするのが究極の課題です。9つの地域がそれぞれの歴史と文化をもっているのです。まずそこに光をあて、そこにすむ方々が夢をもって暮らせるようにすることが地区創造会議であります。

地域に住む皆さんがやるべき仕事、役場が予算措置をするような仕事を融合させて町として大きく発展させていかなければならないという思いで行っています。一番進んでいるのが佐比内、長岡地区です。地区創造会議の考え方を、総合計画に取り込みながら地域を活性化していきたいと思えます。将来、この地区に住んで満足の得られる場になるよう、地区創造会議を立ち上げて意見をいただいているところです。

平成23年度の次期総合計画に向けて、残された今年度、来年度、市民会議でいただいた意見を活用して、計画を策定していきたいのでさらに多くの意見をいただきたいと思います。

平成21年度 まちづくり座談会（佐比内地区）

場所 佐比内公民館

日時 7月28日（火）午後7時～9時

参加者 19人

役場出席者 13人（町長、教育部長、建設部長、下水道課長、水道事業所長、商工観光課長、福祉課長、企画課長、長谷川主査、藤根室長、本波主事、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

=====

資金調達コスト考えると、公債よりも一般的に民間で借りると高くつくが、公民連携だと資金面、財政面以上のプラスがあるから公民連携で進めるのか。

【企画課長】ご指摘の通り、役場は2%弱で資金調達できる。それだけみるとそのとおりですが、皆様方のご意見を聞くというのが公民連携の最大のメリットです。民間のノウハウ、考え、発想により、町としてよりよい方法で計画を練っていくということで進めてきました。ここ2年ぐらいで経済状況が劇的に悪化したため、当初は民間資金をできるだけ活用したい思いでしたが、国の助成金制度をうまく活用しながらやりくりしています。ご指摘のとおりPFIも民間に頼むことで金銭的なメリット、全体的な費用を圧縮でき町が調達するコストよりもコストダウンすることもある。当初考えていたときとは違ってきているが以上のような考え方で取り組んでいます。

アンケートの結果の中に財政が懸念されるというものがあるが、いわゆる公債比率をあげないようにしてほしいという思いがアンケート結果に出ているのだと思う。駅前開発が済んでいない地域があるから不公平感が生まれると思うので、慎重に検討していただきたい。

【企画課長】20年度の予算を振り返りますと、ご心配の公債費比率に関しては、予定よりも0.1%ほど低い比率で推移しておりますので、予定通り平成24年度には18%未満になるという見越しがついていますので今のとおりに進めていくとよいと思っています。災害等が頻発するようだと心配ですが、ご指摘のとおり、十分留意して実施してまいりたいと思います。

佐比内地区は75歳以上が200人以上いるので、福祉施設が欲しい。矢巾町や石鳥谷の施設を利用している。出来れば近くに預けたいので、行政でそういう施設を考えていただけないか。佐比内にとまでは言わないが、赤沢なり彦部なりにでもかまわないので。

地域づくり事業は補助金ではなく、助成金でどうにかできないかと思います。

【福祉課長】長寿健康課になります。話を伺いながらよい方法を検討していきたいと思っています。

【企画課長】地域活動補助金につきましては、まだ始まったばかりですので、ご意見を伺いながら検討していきたいと思っています。佐比内地区は地区創造会議の取り組みが早く、まだ実施されていない地区もありますので、来年度中には行ってきたいのですが、全地区が出揃ったところで、検討していきたいと思っています。

紫波町の名誉町民は地域的なものが多く、全町的なものが少ないと思う。地域のためにいろいろと活動された先輩方の顕彰事業を積極的に行ったほうがいい。

【町長】名誉町民は現在7人いらっしゃいますが、それぞれ全町的にもすばらしい方々です。岩手県もさることながら、紫波町に7人もいるというのは、全国的にも珍しいことではないかなと思います。野村胡堂記念館は野村胡堂さん顕彰したのですが、新しい紫波中央駅前の開発では、名誉町民を顕彰する展示室を設けたいと思っています。

紫波町の高齢化はどここの地区の高齢化率が高いのか？

【企画課長】志和地区です。

子育て、高齢者介護に関して先を見越して攻めの姿勢が大切。終末期医療の問題も出来るだけ早い対応が必要。施設だけ造ることが大切ではなく、在宅医療のサポートなど。紫波町はおそらく健康寿命は上のほうだと思う。それを維持していきたいものです。

【町長】高齢者医療の考え方について、県立紫波地域診療センターは県の方で知事が一方的に無床化にしてしまった。隣のいやま荘で日曜日の夜に亡くなった人がいまして、今までは隣の病院で診てもらえたが、先日は県立病院まで連れてきてくれと言った。日中であれば隣の診療センターから来てもらえるが、夜間に体調を崩す場合も多く、話し合いを進めているところです。急性期には救急車で搬送できるが、慢性期の療養は紫波町ではできない。町内で施設を充実できるようにお医者さんを見つけなければならないと思っている。議論を関係者の方と進めて行きたい。デイサービスやショートステイ、ホームヘルパーを利用する在宅介護、そして在宅医療も大切ですし、施設についても検討したい。にいやま荘のベッドの増床についても考えています。

【福祉課長】子育てと介護という考え方は紫波町でも進めているところです。地区の事情があり、これからの課題も多くあると思います。よろしくお願いします。

現在の施設で何とかして欲しいものがある。産直の水銀灯が6万円かかる。駐車場の区画線に関しても去年、おとしから話をしていたが(予算を)切られた。接触事故も起きた。

イベントがあるので、早急に応急手当として引くことにした。施設を作るのはいいが、維持管理も考えて欲しい。ベンチも腐れば終わりだと思って、塗装しなおした。トイレも、

換気扇が家庭用の小さいものしかついていなくて、においがこもってしまう。排水が溜め池に入るが、水が超えてしまった。木炭を網に入れたものにゴミがつまり、逆流したようだ。これについてもお願いしたが、予算がつかないということのようだ。庭木に関しても自分たち」でお金を出して整備している。出来るだけ自主的に何とか管理している状況なので、町側でも的確な対応をしていただきたいと思います。

【企画課長】説明があれば、予算的な配慮をしますので後ほど担当課とご相談ください。

表示している災害に強い町というのは、どういう考え方なのか？地域防災組織のことが、土石流危険地帯などの整備のことなのか。

【企画課長】例えばという一例として載せているもので、具体的なものではありませんが問題意識はあるので載せていました。大規模な災害が起きたときは、それぞれの自治防災組織が主体となって急場をしのいでいただき、自衛隊などの大規模な援助が来るまでの間、対応していただくことになると思います。

【町長】災害に強い町というのは、とても大きな課題です。地域見守り隊の藤井さんが東北管区の表彰をいただいたのですが、子供たちへの犯罪や、災害時の対応はきちんとやっていたらいけないということで、紫波町では今年2回、防災訓練を行いました。

初動体制訓練、総合防災訓練などを常に行い、何かのときには地域の皆さんにも対応していただきたいと思います。阪神淡路大震災では行政は5%しか役に立たなかったといわれており、地域での支援活動、お隣同士の助け合いというのが主流だったということです。そういうことから自治防災組織を作り、大規模災害に強い町にしていきたいということで載せていただきました。土嚢やスコップなどの資材は支給したいと思っています。

松食い虫対策は何年か前までは一生懸命やっていたと思うが、どうなっているのか？佐比内は結構松があるが大丈夫か？間伐事業で行うのか？

【町長】松食い虫に関しては県にお願いして、徹底的にやってもらうように話を進めており、2千万円の予算を県からいただき、紫波町を最重点箇所として徹底駆除を考えている。

今は現場検証の最中です。1本被害が出たら、半径70mの松をすべて伐採する方法をとるといぐらい徹底してやらなければならないという話になっています。今後秋にかけて大々的に駆除する予定です。予算がいくらかかるか不明だが、国からの緊急対策も利用して行う予定です。もうしばらくお待ちください。

岩手国体について、自転車競技は紫波町で決定と聞いたが、ロードも紫波町か？今まで協力してきたのに、国体だけ西（自転車競技場だけで）でやるということはないか？

【町長】自転車競技はすべて紫波町でやることになっています。他では紫波町のような広い周回コースを持っていないので大丈夫です。国体の際は、佐比内、彦部地区の方にはご協力をいただくことになると思います。

ロードレースの際、通行規制の連絡で、ラジオで国道 396 号線が規制されると放送されたが、456 号線を少し使うくらいで、396 号線は利用しないので、間違った放送をしないように注意して欲しい。

【町長】了解しました。話をしておきます。

河川の整備についてですが、農地水環境補助事業の制度を利用して、ボランティアで柳を切ろうということで、2 年かけて柳の木を切りました。ヨシも切りたいのだが、その中に蛍がたくさんいるので、清流と蛍の観察がされているので、ヨシを切ってもいいものか悩んでいる。集中豪雨等の災害が出る前に、整備をすることが大切なので蛍にはかわいそうだが整備してもらったほうがいいのではないかと。

【建設部長】柳の伐採について、感謝いたします。河川改修について県に要望していました。既に河川改修は 10 年前くらいに済んでいます。平成 19 年度のときには土砂の堆積により、決壊寸前だったという状況を踏まえて、紫波町全体の要望項目が 9 項目ありましたが、その中の一つとして、彦部川と姉市川の整備が入っています。県の回答としまして、安全対策が一番大切なので、何とか対応したいということでした。近々とはいえませんが、何らかの対応をしてくれる予定です。

ヨシの中の蛍については、初めて知りまして、蛍を保護しながらの対応ができるかどうか、もう少し時間があるので地域の意見も聞きながら考えていきます。

【町長総括】大変貴重なご意見を多くいただきまして、ありがとうございました。質問に対して回答できなかったものも後日改めて行いたいと思います。

高齢化につきましては大きな課題でありますし、少子化の問題もありますが、紫波中央駅前活用の活用に関して、子育て支援について一つの大きなモデル地区を作りたいと思っています。若い親御さんたちが駅に安心して子どもを預け、町内なり盛岡市や北上市に働きにいけるように、図書館周辺施設の整備を行っていきたくと思っています。

長岡地区で出た問題ですが、少子化に伴い、複式学級が増えてきていますが、ほかと差がない学習ができるように、支援をしていきたくと思っています。保育所に関しては統廃合を考えております。延長保育等に対応しきれないなどもありますので東部地区に関しては、1 ないし 2 ヶ所の統合施設を作りたいと思いますが、小学校については、地域に密着するものなので、学校は出来るだけ統合することなく、地域に残していきたいと考えています。

産直の外灯が切れたとの話がありましたが、省エネ課題もありますので、水銀灯の外灯の交代ではなく、LED タイプに交代するなど考えたいと思いますので、改めてご相談したいと思います。

防災防犯について、地域の皆さんにいろいろな場面でご協力をしていただいております。

て、犯罪件数は減ってきています。よそからの人による犯罪もありますので、今後とも防犯対策を皆さんとともに続けていただきたいと思います。

今日は貴重なご意見をいただきました。今まで地区創造会議の中で大変なご協力をいただいておりますので、次期の総合計画に盛り込んでいきたいと思ひます。今後ともご意見、ご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

平成21年度 まちづくり座談会(彦部地区)

会場 彦部公民館

日時 7月29日(水)午後7時~9時

参加者数 9人

役場出席者 14人(町長、副町長、生活部長、下水道小田中主幹、農林課長、土木課長、生涯学習課長、総務課長、企画課長、長谷川主査、高橋哲也、松田絵里香、熊谷主査、小田中主任)

質 疑 応 答

=====

彦部地区でも地区創造会議始める。今のところ40~50人かなと思っている。どのような意見・考え方がでてくるか楽しみ。そういったものを総合計画に反映してもらえるのか。

彦部地区は、環境が非常によい地区で、農業振興で市街化調整区域のため開発がされない。結構なのだが、その反面、人口が減っている。若い人たちが出て行っている。開発なしに人口流出免れる方法はないものか。

【企画課長】地区創造会議で出た意見は、総合計画に反映させたい。反映のさせ方については、地区それぞれで様々な意見が出されるため、画一的にすべてを反映させるということとはできない。反映の仕方を考えなければならない。地区で自主的に取り組んでいただける部分と、地区単独で実現不可能な部分があると思うが、地区単独で実現不可能な部分について町が支援していきたい。

人口減少については、なかなか妙案がないのが現実かもしれない。JR沿線は人口の社会増が見受けられるが、その他の地域は人口減少が非常に目に付いてきている。自然増(出生)より自然減(死亡)が多いためだと思う。出生率を上げる必要がある。国学院大学の森林体験によりイターンした方が3人いた。人口増のためには、紫波町のファンを増やすことや、子どもを産み育てることのできる環境を整えることなど考えられるが、具体的には示せない。

座談会には、もう少し集まってほしい。やっぱり区長には来てほしい。代表なわけだから。行政として指導して欲しい。

高齢者に優しい町をお願いしたい。東部地区には老人ホームがない。一ヶ所くらいあってしかるべきでは。また、地域には引っ込み思案の高齢者が多い。引きこもりがちになる。みんなで支え合う必要がある。

最近の例だが、一人で留守番していた老人が体調を崩し、帰ってきた家人が救急車を呼んだが、救急車が来たときには手遅れだったようで、医者が判断するまでもなく搬送されなかった。こういったことが無いように、高齢者に優しい町にして欲しい。

10年計画だから我々には夢も希望もないが、できるだけ可能な順に早く進めてほしい。

【企画課長】区長や公民館長にはご案内しているが、対策を検討したい。

【生活部長】難しい課題なので、すぐに結論がでるものではない。一般的に、女性は外に出るが、男性は引きこもりがち。憩いの家などでも男性の参加率が低い。どこの地区も。町としては、一人暮らしの高齢者には、連絡網を構築し、保健師が定期訪問してリストアップを行うなど、緊急事態で苦慮するということはあるべく無くすようにがんばっている。

詳しくは無いが、救急車が到着した時点で亡くなっている場合は、警察の分野になるようだ。介護関連施設については、介護保険事業計画によって各地区にバランスよく配分するように努力している。

そういった施策の前に、なるべくみんなが助け合って、引きこもりがちの高齢者にも社会参加を続けて欲しい。老人クラブなどに参加してもらうなどしてほしいと思う。

町政の中長期展望ということで開かれていると思うが、紫波町は南北に盛岡、花巻があって、そこにはさまれた田園地帯で特に特徴があるわけではない。交通の便が良く土地が安いので、ベッドタウンとして矢巾町とか紫波町に住む人が多い。そこで、町としても中央部に設備投資したり住宅地開発を行ったりしている。しかし、東部はなにをやるべきか、ということが具体的にでてきていないという問題がある。

紫波町の場合は財政が厳しいといっているが、将来展望を考えた場合に、全部関連するが、雇用の確保、地場産業の育成などの目的をきちんと持って、町内のバランス考えてやってもらいたい。財政問題も地場産業があって、そこで若い人たちが働ければ解決するのでは。過疎地区は雇用先を探して都会に流れ、戻ってきても働き口がないので、そっちに家を建て、残された地域は老老介護になる。

以前町長は、企業誘致しようとする足元見られる、倒産したとき怖いと言っていたが、雇用確保をぜひやってほしい。

年を取ってくると車の運転ができなくなる。通院しようにもバスの便数が少ない。施設そのものが少なく順番待ちになっている。そういった状況に対し、前もって手を打っていくことが大事であり、当然のこと。お金はかかるが長期計画に入れてやってほしい。

労働人口について、町外で働いている人と町内で働いている人とどっちが多いか。町としては把握しているのか。

【企画課長】財政状況について、町税と地方交付税を合わせて見ると、平成4年度当時まで歳入レベルが下がってきている。これは、地方交付税が減っているから。町税を細かく見ると、固定資産税は平成11年度あたりまでゆるやかに伸びて、その後は横ばい。法人税は減少したまま税収としては少ない。一戸建てを購入する人が増えると固定資産税は伸びる。雇用や産業もそのとおりだが、できるだけ人口を増やす、特に働き盛りの人たちに多く住んでもらえるような町づくりをするというのも一つの方策なのでは。

高齢者の交通手段の確保についてはご指摘のとおり。県交通の乗り合いバスが廃止廃止で、ちょうど良く乗れるバスがなくなっている。町としてはコミュニティバスを運行しているが、需要には応じかねている。どうしたら対処できるかということについては十分に検証を行って対応していきたい。

雇用や産業については、後ほど町長がまとめてお話しする。

入所できる施設がないということについては、生活部長の先ほど回答した内容でよろしいでしょうか。努力しているということでご理解願います。

学校で使っているマイクロバスを空いている時間に利用することはできないか。

【企画課長】スクールバスは用途が限定されてしまうので、逆にスクールバスとして利用でき

るコミュニティバスというものもあるのではと考えている。

他市町村だと循環型のバス、乗り放題 1 回 100 円でぐるぐる回っている。しかも、用途もそれ専用ではないと聞いた。紫波町でもぜひ検討して欲しい。

公民連携の計画について、民間施設ができるという話だが、こういった社会情勢なので、民間といっても何でもかんでも入れればいいと言うものではない。高齢化社会なので医療関係の誘致を望む。

また、フットボールセンターができれば、合宿や大会等で宿泊施設が必要になる。周りの皆さんの話を聞くと、紫波町は立派な運動公園があっても、宿泊施設がいまいちだ。

アンケート結果によると、交通のアクセスに不満があるようだが、自分の仕事の関係で県内各地から集まる行事の会場に紫波町の施設を使っているが、利便はよい。インターチェンジがあるので高速を使いやすいし、駐車場も確保されているし。だから、もう少し整理して、プロ野球とかそういう大々的なものでは無くて良いから、お金のない団体でも利用しやすいような整備をした方がよい。

また、話は変わるが、お金がなければなにもできない。そのためには産業の活性化が大事。町、特に東部地区はなんだかんだいっても農業が基幹産業なので、もうちょっと何とかならないか。農家で生活できないので県外に出る。農業だけで生活できれば、後継者が確保でき、後継者がいれば子どもも産まれる。後継者がいなくて子どもも産まれないから小学校は複式学級。まさに悪循環。

町として限られた財政を、まんべんなく広くばら撒いてしまえば効果も低い。せっかくの 10 年計画なので、どこを重点的に育てていくのか目標を設定し、それを達成することで、先ほどから出ている不平不満を解消できるような計画を立てて欲しい。

農業に対しての予算的配分はどうなっているのか質問します。

【企画課長】フットボールセンターについて、まだ民間企業の動きを見て、町が期待しているという段階ではあるが、事業棟 D 棟あたりにフットボールセンターに関連する様々な施設、たとえば合宿施設等の事業を期待している。

また、となりの事業棟 B 棟には情報交流プラザと民間施設とありますが、民間施設としてレストラン等が入ることも想定される。事業棟 A 棟についても、今言ったような施設が出来てくると、民間の投資意欲も出てくる。C 棟は役場庁舎として予定している。A 棟とか D 棟については、3 階部分を住宅にという形も考えている。いずれ町が先行投資して、施設が出来てくると、民間も投資意欲がわいてくると思われる。

【生活部長】中央駅前に医療関係の施設を集中するというアイデアは、すごくいい案だと思う。ただ、現実的には、開業医が医療コンサルを信じたら倒産したという事例が県内でもある。開業医の先生方は勝算のある場所に開業したい。医療モールについても、盛岡市ぐらいの規模で成立するとされている。紫波町の地域医療については、紫波診療所の関係で昨年から苦慮しているが、紫波町に無い診療科、たとえば眼科などの医師がいないか医師会に相談している。しかし、開業医の倒産という医療界の現実もあり、医師も慎重になっている。町として、さらに努力を重ねていきたい。

せっかくの10年計画なので、今いる医者だけでなく、町が医者を育てるということも考えてほしい。

【企画課長】少子化対策の面からも、医療も含めて子育てがしやすい環境が必要なのかなと考えている。

交通対策については、JRとか県交通と連携しながら、便の良い紫波町だけの交通体系を考えていきたい。盛岡からの深夜バスも、中央駅に立ち寄ってもらうなど、工夫してもらっている。

公民連携基本計画の資料の中に、紫波中央駅東口構想というものも載せている。まだ、構想段階だが、10年計画の中で実現していきたい。今後、JRと協力して進めていきたい。

【農林課長】紫波町の基幹産業はやはり農業。一次、二次、三次産業が繋がった独自産業を考えていきたい。どうしたら農家の人が生きがいをもって農業を続けていけるか考えなければならない。紫波の農業・農産物をブランド化して、町外に発送して、所得向上につなげることが大事。

えこ3センターで作った堆肥を使って、土づくりをして、良い農産物を作っているということをしてPRしていきたいということで、農家の方々が「私がこのような土づくりをして作った農産物」とアピールできる制度を作った。現在50人近くが取り組んでいる。これを一つのきっかけとして、紫波町の農産物のブランド化の確立を図り、農家の所得向上を図りたい。

また、農家の高齢化が進むと農作業に機械が必要。様々な補助事業を活用して、より多くの農家の方々に農作業機械を活用していただけるようにしていきたい。

【企画課長】予算配分については、農林水産業費が決算に占める割合は1割ぐらいで推移している。現在多いのは民政費で、医療費や福祉関係が2割程度を占めている。計画の重点化についてはご指摘のとおりです。

「情報ネットワークの整備された町」とありましたが、ある雑誌において、IT関係で紫波町は行政サービスランキング全国1位とある。そのような町で、今は光回線の時代なのに彦部地区はNTTのISDN回線を利用している。672局の場合は良いが、674局がまだISDNということで、ADSLも使えない。

有線がある方はフルーツネットさんを利用している。NTTに電話で質問したら、「我々は行政に弱い」と言っていた。行政の方から、情報格差を埋める努力をしてもらえないか。

たまたま人から聞いた話ですが、佐比内で、東京から娘さんをUターンさせるきっかけになったのは、ネットが使えることだったそうです。川東地区がITの関係は非常に遅れているということなので、行政の力で光回線を引いてほしい。

【小田中主任】町としても、NTTにはあらゆる機会を捉えて要望をしている。国では今、全国のブロードバンドゼロ地域を解消するための政策を進めていて、全ての世帯が最低でもADSL回線を利用できるようにしていこうとしている。

町としても、まずは、フルーツネットを含めた形で、ADSL回線以上の速度での接続環境を全町で整備し、その後、さらに高速回線である光ファイバーの整備を考えていきたいと思う。

佐比内地区は良いみたいだが、彦部地区がデッドゾーンになっている。674で始まる回線がダメなようだ。

【企画課長】その点については、調査してみないと分からない部分もあると思うが、今言った

ような方向で進めて行きたいと思う。

今、フルーツネットの話が出たが、いわて中央農協は有線放送自体の存続を検討している状態。有線もこれ以上回線は増やせないと言っている。

【企画課長】合併農協になって、紫波町だけの問題ではなくなっているの、対応しかねる部分もあると思うが、町としても十分フォローしていきたいと思っています。

有線事業が廃止になったら消防の連絡手段はどうするのか。町からそういう観点からも存続を働きかけて欲しい。

【企画課長】有線放送が、緊急時の情報伝達手段として、基幹のメディアとなっているのは間違いないので、町としてもフォローしていきます。

先月 26 日に、星山の水洗化についての説明会があった。具体的には、予算等の措置を含めて、9 月の定例議会で決めるという話だった。当初は農業集落排水という話だったが、整備に金も時間がかかるので、途中から簡易水洗の方が早いという指導だったので、我々も賛成した。整備に 10 年もかかるというのであれば大変だ。

そもそも平成 22 年を最終年として、紫波町計画としての整備は終わるのだという話が町長からもあったが、このとおり延び延びになっている。その辺についてはどうか。9 月議会で通れば具体的になるという話だった。

【下水道課主幹】公共下水道と農業集落排水の事業、そして平成 18 年から町の管理型浄化槽の事業で、紫波町全域の水洗化を早期に達成しようということで進めています。

県内では 3 月末で普及率 84.5%。紫波町は、盛岡、矢巾、和賀に続いて 4 番目の普及率。その中で、まだ普及率 100%ではないので、当初 22 年 100%として計画を進めていましたが、また、これから 5 年、10 年先を見越して計画を作っているところです。

浄化槽事業については、昔は単独式浄化槽といって、台所の水はそのまま排水していたが、今は合併浄化槽といって、台所の水も浄化してトイレの水と一緒に排水する設備になった。これを導入したことにより、普及を早期に達成できるという見込みがたったわけですので、2 月にその説明ということで星山地区にうかがった。

下水道の基本構想も見直す時期になったので、見直した構想を 9 月議会で提案したい。それが通れば平成 22 年度から事業を進めることが可能です。

6 月のアンケート結果では、約半数の人が浄化槽でも良いと回答している。さらに 20%の人が早期の実施を望んでいます。約 7 割以上の人が、早期の事業導入を望んでいると把握している。議会に諮るのは予算ではなく計画であり、その後、平成 22 年度の当初予算で予算化していきます。

こどもの家につかっている樋ノ口公民館のトイレが嫌だという話が出ている。

【下水道課主幹】樋ノ口公民館については、国の今年度事業で大型浄化槽の設置要望がありまして、町で事業に手を上げています。浄化槽の設置は企画課の自治公民館改築事業と併せて実施する予定です。構想が 9 月議会で認められた場合は、公民館について今年度取りかかれます。

「全国に誇れる町」とあった。紫波町は南部杜氏の町ということで、私も紫波町民謡保存会の

会員だが、酒の歌全国大会を紫波町で開催してはどうか。提案したい。以前は石鳥谷町で開催していたが、財政が厳しいということで止めている。南部杜氏、紫波町のもち米を全国にPRするという意味で、企画してはどうか。

【町長総括】いろいろとご提案をいただきまして感謝いたします。

新しい事業につきましては全町を歩いて決定し、全国にも先駆けて行っている市民参加条例というものがございますので、多くの町民の方々と議論して決定していきたいと思えます。

町が取り組んでいるいろいろな事業の中で、特徴のない町ではやはり駄目だと思います。自治体とは一つの会社のようなものですので、一つは特徴を出したいと考えて、循環型まちづくりや、目に見えないものではありませんが人材育成に力を入れていかなければいけないと考えています。

紫波町は5年前から小学校3年生からの英語学習を取り入れていますが、これは全国に先駆けた取組でございまして、文部科学省は紫波町を参考にし、来年度から全国で小学校3年生からの英語教育を行うこととなりました。人材育成とはとても重要なことで、世界で活躍できる子どもたちを育てていかなければいけないと思っております。今年の2月に、小、中学校の子どもたちとともにオーストラリアの姉妹都市にいつてまいりましたが、臆することなく、現地の方々とショッピングをしたり、学習したりする姿をみて、まちがいではなかったと感じました。レベルの高い人たちが活躍できる場を作ることは大切なことです。

下水道については、普及率は85%で、残りは15%ですが、財政難でありますので安く上げなければならないというのがモットーです。国もそういう方針になってきています。

1000人が一つの処理区域でしたが、例えば彦部地区に関しては下水道を引くとすると1戸平均、1200万円かかります。上平沢地区だと若干人数が多いので、1戸あたり700~800万円です。農村部は1戸あたりのコストがどうしても上がってしまうので、合併浄化槽区域をすすめていかなければならないと考えています。残りの15%については、PFIによる処理区を増やしていき、合併浄化槽も下水道と同様に町が管理して、料金を算定して皆さんにご負担していただく形で進めていくという方向で進めていく予定です。

公民連携事業については、紫波中央駅前のデザインについて、専門家に依頼して、委員会を結成してデザインを作成中です。紫波町は農村部と都市型がうまく融合したまちですので、東部地区については農村部をどう生かすか、中央地区については都市型をどう融合させていくかということ盛り込みながら、それぞれの地域の特徴を生かして10カ年計画に盛り込みたいと思えます。

9町村のそれぞれの地区の今から50年前の歴史、文化を見直しながら、紫波町とひとくくりにするのではなく、地区それぞれに根ざした文化に光をあてていきたいと考えています。

地区創造会議につきましては、彦部地区はまだですが、あと4カ所、行っていない地区もありますので、来年度までに行いたいと考えています。立ち上げの際は、よろしくおねがいます。

紫波中央駅前についての公民連携ですが、医療問題、少子高齢化の産業を見越した施設を作らなければならないと思っております。

町内もさることながら、北上市や盛岡市の企業、官公庁に勤められている方が、中央地区に住んでいらっしゃるの、そういう方々が安心して子どもを預けて、働きに出かけられる環境を整えて行きたいです。万が一、日中に子どもに何かあったとしても、医療や設備を整え、安心して働けるような仕組みにしたいと考えています。

東部地区には3つの児童館と1つの保育所がありますが、これらを将来的には統合していきたいと思っています。父母の会の皆さんにご相談していきながら1つにするか、2つにするか、考えていきたいです。早朝、夜間の延長保育の希望が増えてきており、4つの施設のまま現在のスタッフで延長保育まで見るのは困難ですので、統合しながら将来を考えていきたいです。

財政問題についてですが、平成24年に実質公債費比率を18%にする計画を進めており、現在23.3%となっています。計画より若干早く到達できそうです。財政を抑えつつ、地域の皆さんの要望も取り入れていくためにも、PFI事業を多く取り入れており、火葬場、合併浄化槽、赤沢地区の水源の膜ろ過施設などに取り組みました。古館こどもの家についても、10年間の延べ払い方式で財政負担が平均したものにするなどして、取り組んでいきたいと考えています。

将来に向けての多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともさらなるご指導を承り、次期計画を作って生きたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

平成21年度 まちづくり座談会（赤石地区）

会場 赤石公民館

日時 8月1日（土）午前9時30分～正午

参加者 33人

役場出席者13人（町長、教育長、産業部長、町民課長、福祉課長、都市計画課長、税務課長、農業委員会事務局長、企画課長、長谷川主査、高田主任、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

=====

日詰駅前の区画整理の状況、今後の見通しはどのようになっているか。

【都市計画課長】今年度に駅前の広場、駐輪場の跡地の整備が終わる。道路等も来年度でほぼ終える予定。事業の精算も含め平成23年度で全て終える予定。

駐輪場に130台の自転車があるが、使われていないものも見受けられる。これらの処理はどのようにするのか。

【都市計画課長】放置自転車は土木課で調査し、期限を示して撤去するよう通告しているが進まない状況。なお、駐輪台数については現在の台数を基にしている。

し尿処理場と4号線間の道路側溝について昨年10月に現地確認に来た職員が「来年6～8月の道路整備と併せて整備する」といわれた。先日の雨でゴミ、水が宅地内に入ってきて困っている。

<区長より> 当地区の区長ですが確認して担当課に伝えます。

【企画課長】こちらでも確認して対応します。

情報交流プラザ、庁舎を中央駅前に作ることは中央集中型とならないか。周辺部の町民の利用、交流につながるか。証明書などは農協の支所で発行も良いのでは。桜町の農業改良普及センター、医療局宿舍の建物を再活用しては。

今は住宅販売しようとしても売れない。（中央駅前の）土地は売却しては。

70～75歳の方々はもう少し負担をしてもらっても良いのでは。敬老会の粗品もいらない、他町村ではやめたとも聞く。

座談会、アンケート等の町民の意見を聞く機会はいらない。職員にポリシーがないから行うのでは。リーダーシップを示して欲しい。

【企画課長】公民連携基本計画については、これまでの意見を聞く機会でも寄せられた声で進めているものですので、ご提言についてはご意見として賜ります。

平成21年度 まちづくり座談会（赤沢地区）

場所 赤沢公民館

日時 8月2日（日）午後1時～4時

参加者 10人

役場出席者 11人（町長、建設部長、福祉課長、環境課長、学務課長、企画課長、長谷川主査、高田主任、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

=====

赤沢として若者が行き交う町を考えて行きたい、そのために農業の収入があること、また雇用の場が必要である。働いて楽しむことが必要。

【企画課長】町長より最後のまとめの中でお答えいたします。

昨年北上市でごみの有料化をしたら不法投棄が増えたと聞く。町では有料化を考えているか。

また当地区の意識は低く、集積所に分別しないままごみが出されてしまう。

【環境課長】町内の各団体により資源回収を進め、400万円の補助を行っている。回収しないと2000万円の負担となり、差し引き1600万円節減できている。

地区の皆さんが集まる機会があれば役場から説明に伺いますのでご連絡ください。

総合計画について7月広報にて計画期間が2009年と2010年とあったが。

【長谷川主査】2009年と2010年に計画を策定するものです。

紫波-川井線（県道25号線）は冬季間閉鎖になってしまう。町と沿岸との交流のために整備が必要では。

赤沢の2級河川にヨシが生え地区の住民では除去しきれないので、町で出来ないか。

【建設部長】紫波川井線について長年県に要望しだいが整備は進んでいるが、歩道などまだ十分ではなく、知事に対し要望している。冬季間の通行については良い回答は得られていないが引き続き要望していきたい。道路側溝は浄化槽の普及と合わせてだいが整備を進めてもらったところ。

現地確認して管理が町であれば速やかに、県であれば適切なところに伝えて対応する。

【企画課長】佐比内では川の中州を浚渫すると蛭がいなくなる、かといってそのままであれば防災上問題があるということもあるので、その兼ね合いを考慮する必要がある。

平成21年度 まちづくり座談会（志和地区）

場所 農協志和支所

日時 8月6日（木）午後7時～9時

参加者 8人

役場出席者 12人（町長、産業部長、教育部長、下水道主幹、商工観光課長、長寿健康課長、企画課長、長谷川主査、坂本主任、本波主事、熊谷主査、小田中主事）

質 疑 応 答

=====

紫波中央駅前町有地の草刈経費は？用地取得してから10年間更地になっている。10年間の固定資産税は町が払っているのか？更地にしていたことで草刈などの費用がかかる。草刈費用などの維持費をかけるくらいなら、使っていなかった10年間、民間に貸し出すなどしたら、収入を得られたのではないか？

【企画課長】町有地の場合、固定資産税はかかりません。また、草刈経費は紫波中央駅前の町有地分だけではなく、住宅跡地の更地など、いろいろな場所にかかる分をまとめて予算を取っています。最初は年間10万円の予算を組んでいましたが、無駄な出費となってしまうので、現在はサンビレッジ横の町有地の草刈については役場職員のボランティアが行っており、持参してもらった草刈機の燃料代程度しかかかっていませんので、平成10年度からの11年間でどんなに多く見積もっても100万円以上は使っていません。

民間に貸し出したとしても、固定資産税はとれませんので、貸し出しの評価額がいくらになるかにもよります。平成10年あたりから貸せばよかったのではというお話ですが、13年度あたりから総事業費で140数億円をかけて西口整備をスタートさせようという話が出たので、民間に貸し出すということはまったく考えてもいなかったのです。景気の悪化、国策の変化、財政難に伴い、スタートが遅びてしまったのでこのようになりました。いずれかの時期から貸す手もあったというご提言もあるかもしれませんが、町としては貸さずに今に至りました。

交通事故のない、安全な町ということですが、草刈のあと草焼きをしたために、交通事故が起きたということで、盛岡地裁で負けたという判例がある。町道の草は町が刈り取る義務があるが、町民が善意で草刈を行っている場合が多い。仮に町道の草を焼いたことによって事故が起きた場合、町は対策を考えているのか。そういうありえないことまで想定するのが危機管理というものではないか。

【産業部長】町道の路肩については町のほうで刈るとするのが当然ですが、手がまわっていない状況ですので、草刈を行っていただくのは、協働社会の実現という中でもぜひお願い

平成21年度まちづくり座談会（水分地区）

会場 水分公民館

日時 8月7日（金）午後7時～9時

参加者 16人

役場出席者 13人(町長、教育長、生活部長、農林課長、土木課長、水道事業所長、総務課長、企画課長、長谷川主査、須川主事、坂本主任、熊谷主査、小田中主任)

質 疑 応 答

=====
町長と教育長へ御礼を申し上げたい。藤原嘉藤治の音楽会へ常に出席、祝辞をいただいてありがとうございます。

音楽会には200人から300人集まるが、本日の座談会、せっかくの機会なのに地区の出席者がこんな人数で残念。地区から活性化していかなければならない。地区で集まって、議員さんを中心にして水分をどうして行けば良いか考えていかないと、町づくりになっていかない。

【町長】参加意識を高めるのは、なかなか大変。日中にやれば限られた人しか来ないし、夜にやれば良いのかと思っているが、なかなかうまくいかない。どこの地区でもそうだが、集まる人数は少数。それでも、少ない人数の中で気付いたところをお話ししていただける。

当地区には、須川長之助さん、藤原嘉藤治さんをはじめ、素晴らしい功績を残した方々がいる。これから当地区で取り組む予定の地区創造会議の中で、水分はこうあって欲しいというものを出していただきたい。地区の持っている歴史・文化はこれから大事。無くなっていくものをどう継承していくかが大事。我々も努力していきたい。

これだけ座談会の出席者が少ないと、関心を持たせるためにはどうしたら良いか考えてしまう。

【町長】前は、地区の大字単位で町内33カ所を回らせていただいて、そのときは人数が集まった。地区単位で開催すると、このとおり。我々としては、できるだけ多くの意見を集約したい。

座談会では、1地区から何人というように決めて出席させないと、人が集まらないのではないかな。

大事なものは人材育成。それが、地域づくりにつながり、町づくりにつながる。

子育てが楽しくなる町にして欲しい。水分児童館は20人の児童を受け入れているが、実際には当地区には40人くらいの児童がいるはず。あとの20人くらいは虹の保育園やあずま幼稚園に流れている。なぜかという、核家族であり、延長保育のあるところをお願いせざるを得ないから。

したがって、延長保育のある水分児童館の運営のあり方を考えなければならない。各地区にそういう施設があることが大事であり、安心して子育てができることが少子化対策につながる。

【生活部長】現状では、児童館で延長保育を行うのは人員的に厳しい。児童館と保育所の違いもあるし、料金体系等根本的な見直しが必要になる。

ただ、地区では、子育てと高齢化対策がメインテーマになってきているので、一つの貴重なご意

平成21年度 まちづくり座談会（西部地区）

場所 上平沢小学校

日時 8月8日（土）午前9時30分～正午

参加者 5人

役場出席者 15人（町長、副町長、経営支援部長、町民課長、環境課長、都市計画課長、生涯学習課長、企画課長、公民連携主幹、長谷川主査、高橋主事、松田主事、須川主事、中村室長、熊谷主査）

質 疑 応 答

＝＝

環境について河川の草刈や桜の植樹等の整備を行っている。作業を行うのは70歳以上でみんな健康である。医療費もかからない。

文化、歴史について志和代官所跡については町が行うべき。

会社を経営しており、若い者を雇っているが意欲がないとすぐ退職してしまう。その点、家庭を持っている人とは違うようだ。

【生涯学習課長】八戸藩の縁で毎年八戸市の代表者が一人ずつ来町している。紫波町からも来てくれと言われる。4～5年前に話を投げかけたことがある、しかし志和地区では『吉里吉里』との交流が毎年あるので、実現していない。

昨年地域の方々が八戸に訪問したと聞いているので、教育委員会で支援したい。

その件は町長を表敬訪問したとき聞いていた。（行くかどうか）意欲が必要。グランドゴルフは好きだからやる。草刈りもやる。同じように盛り上がりが出てくるのが、大事だと思う。

【町長】雇用の場より、住環境を整備して通勤してもらう方がいいと考えている。町外へ一歩でるとたくさんの企業があり、中央駅前に優良住宅地を整備して住民を受け入れた方が良い。

法人税は歳入の中で1億円余り、伸びているのは個人所得税。大きな企業は誘致しようとするただで（用地を）10ヘクタール等と要望してくるが数十億円の出費となる。小さい企業もインフラ整備してもなかなかこない。その一方で景気が悪くなれば撤退する。今は（職と住を広い）エリアで考えていかなければならない。

盛岡広域で誘致企業の会議があり、その中で近江商人の歴史で日詰の町づくりできるのではないかとの話題があった。

企業誘致は矢巾等に太刀打ちできないが、環境よければ住みやすいと言って滝沢とかからやってくる。

町外から安くて環境がいいので転居してきた人が滝名川愛護会に不参加であった。その

平成 21 年度 まちづくり座談会（東部地区）

場所 星山小学校

日時 8月8日（土）午後1時～4時

参加者 14人

役場出席者 14人（町長、副町長、建設部長、税務課長、環境課長、学務課長、福祉課長、企画課長、公民連携主幹、中村室長、長谷川主査、高橋主事、鎌田主査、熊谷主査）

質 疑 応 答

=====

（8/6 付 FAX）近年二度の床下浸水等の被害が起きているが、春先、北上川堤防建設の話し合いを行ったということですが、その後どのような対応策を考えたのか？

【企画課長】担当課から預かってきた文面を読み上げさせていただきます。平成 14 年及び平成 19 年に、紫波町内の各地で床上及び床下浸水の被害がありました。以前から国土交通省に対し、北上川の堤防の早期建設を要望してまいりましたが、昨年から暫定堤防の建設が具体的になり、今年 1 月に堤防建設の計画が発表されており、平成 21 年度に用地取得、平成 22 年度から着工する予定になっています。それですべて解決するわけではないので、町側としても大雨の際の水の氾濫状況を調査し、出来るだけ災害にならないように努めていきたいと考えています。

町の対応といたしましては、国が整備する堤防は、北上川からの流入を防ぐものであり、上流からの流入は少なくはなりませんが、水門を閉じた際の内水が溢れるようなものは築堤では対応できません。なるべく水が集まらないように間木沢川を改修するにしても莫大な費用と時間がかかります。根本的に解決するには、地盤を上げるか、内水をすべて汲み出す以外にありませんが相当の費用と時間がかかります。町として、比較的早くに取り組める対応といたしましては間木沢川にある 1m ほどの落差工を撤去して、川の流れをスムーズにするか、北田線の道路を高くして流入を防ぐなどの方法が考えられています。

【建設部長】築堤については、国土交通省に依頼していますが、平成 20 年度に設計し、平成 21 年度に用地の買収、平成 22 年度に着工するという説明がありました。築堤は北上川水位が上昇したときの対応になりますが、近年ゲリラ豪雨のように内側のほうからの増水については別の対策をしなければならぬわけですので、これは町で行います。

原因の調査は既に行っていますので、それに基づいて次のステップになるわけですが、それが費用と時間がかかってしまいますので、可能なところからとなりますと、間木沢川にある落差工を撤去して、川の流れをスムーズにすることと、山側の道路が低くなっていますので、道路を多少高くすると、流入してくる水が少なくなると考えています。大地町北側の地域は排水溝を今年度中に整備して間木沢側のほうに流れるようにしたいと思いま

平成21年度 まちづくり座談会（中央部）

場所 保健センター

日時 8月10日（月）午後7時～9時

参加者 14人

役場出席者 14人（町長、経営支援部長、教育部長、下水道課長、商工観光課長、農業委員会局長、長寿健康課長、企画課公民連携室長、企画課長、藤根室長、鎌田主査、長谷川主査、熊谷主査、小田中主事）

質 疑 応 答

=====

道路の拡張について。日詰郡山駅の交通量が多い道だが、狭くて緊急車両が入れない状態。渡辺歯科から習町の駐車場まで広くしたほうがいい。

【企画課長】道路担当所管から回答をもらってきました。道路の整備につきましてはなかなか進んでいないのが現状です。個々の道路整備は、全体的な道路整備計画を立てた中で路線ごとに整備をしていかなければならないものです。今回の例のように、現時点で整備計画がない場所に、未利用地があるからといって早急に整備をすることは困難です。つきましては、周辺住民のご意見をお聞きしながら次期総合計画の中で検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

紫波総合高校から水分の方に住宅地があるのですが、そこに下水道の計画はあるか？

【下水道課長】現在のところ、平成21年度は工事前の設計調査を進めており、来年度から事業をスタートする予定です。手前から始めていくので、すべて終わるまでは3年くらいはかかるかと思えます。

紫波総合高校のグラウンド北側に側溝があるのですが、そこが土側溝になっている。コンクリート蓋のついたU字側溝等にする計画はありませんか。雨が降ると、高校生の自転車登下校時に危険だと思う。

また、七久保食堂から古館駅にいく道路があるのですが、住宅側の方に側溝がある。そこも土側溝で危険です。ある家では入り口に鉄板を敷いているとのこと。

さらに、紫波総合高校東側の路線橋の塗装がはげていて見た目が悪い。塗装の計画はありますか。

【経営支援部長】土木課長の代わりにお話ししますが、紫波総合高校北側については少しずつではありますが、側溝の整備は進めていくことになっています。もう一カ所については土木課に要望を伝えておきます。

跨線橋については紫波町には線路をまたいでいる跨線橋が3カ所あります。いずれも整備してから相当年数がたっていて、耐震強度についても心配をしています。利用状況を調べ、将来にわたっても必要なものなのか調査をしながら対応を考えたいと思います。

具体的な計画にはなっていませんが、耐震補強をするにしても撤去するにしてもお金がかかりますから、利用者の皆様の意見を聞いて、検討していくことになっています。従いまして、今すぐの塗り替えはないです。アンダーパスに水が溜まらないようにポンプを設置し通れるので、橋が本当に必要かという検討も必要になっています。

現状は利用者が非常に少ないです。アンダーパスが出来てからは（跨線橋は）将来的に利用されないのではないかと感じています。防犯上の心配もあり、撤去してもいいのでは。

【企画課長】利用者が少なく、防犯上もよくないということがあるようですので、ご意見として承っておきたいと思います。

基本構想、基本計画の見直しについて、審議会でここを直したほうがいいのかとお話しても、意見をお聞きしますということだけで、草案の修正は行われていないように思う。

例えば、平成10年の計画では、優良農地を確保しつつ、産業振興を図るという案が出されたが、どうやって優良農地確保と産業振興の両立が出来るのか？紫波町はほぼ全域が農業振興地域なのに、いくら工場を建てたいという要望があっても建てられないですよ？どう調整していくつもりなのか。若者を惹きつけるものはあるのか。雇用産業の問題の対策は？医療問題も県立病院の問題等、具体的に示してもらわないと不安が募る一方だ。

意見だけ出しても実行できるような計画をしていかないと計画倒れになってしまうのではないかと。不景気な時代、特に商工業者が困っている。5年先のことは分からないし、状況は変わるので町民の負担を考えると、計画の見直しも必要。

【経営支援部長】回答にならないかもしれませんが、所見を述べさせていただきます。産業振興についてですが、町では隔年で4回、町民意識調査を行ってきましたが、産業振興、雇用に関しては毎回ワースト10に入っています。農業自体も苦戦していますし、企業誘致に関しても、景気の急速な悪化に伴い、最悪の状況になっています。町にある産業を育て、地場産業をつくるのが理想ですが、簡単にはいきません。

就業について、まったく募集がないわけではないのに、希望者はいないようです。町の若い人たちの希望する職種と、実際の仕事のミスマッチもあり、うまく回転していないのだと思います。若い人たちが集まったり勤めたりする場が必要なので、紫波中央駅前も、いろいろな意見があり、難しい判断もありますが、新しい雇用の場が増えるきっかけにならないかと期待をしています。新しい総合計画と市民会議のギャップは確かにあったと聞いています。次期計画ではより皆様の意見を取り入れられるようなしくみを検討していきたいと思います。

【農業委員会事務局長】農業振興地については5年に1回、見直しをかけています。その時々で計画どおりにいかない場合、途中で農業振興農用地区域除外申請が出てきます。

既存企業にがんばってもらい、関連企業に来てもらうなどをしてはいたと思っていますが難しいです。主要企業の会社訪問をし、ご要望・ご意見をいただきました。人は欲しいけど、採用しても仕事が合わずに辞める場合も多いです。サービス産業に行きたい等、雇用の需要と供給が合っていない状況になっています。

ニチコンについては、年に 1 回、本社に表敬訪問をし、要望等を聞いたりしており、今回の撤退については相談なくして突然のことだったのでわれわれも驚いています。サントリーにも、紫波産のホップを使っていただいた関係で行って来ました。フォーラムに参加しても、誘致に結びつかないことが多いが、PR をしてきました。もし何らかの企業が来てくれるのであれば、一等農地以外は転用することも考えたいと思っています。

【長寿健康課長】県立病院問題。紫波町における地域医療について、関係者と町民を含めて第一回目の懇談会を開きました。地域医療に取り組んでいる町の見学会や講演会を企画し、町の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。県立病院があることで頼っていた部分があるので、地域医療という分野に今後は取り組んでいきたいと考えています。

【商工観光課長】企業誘致については総合計画にもあり取組を進めています。現在の工業団地に未整備ですが土地はあります。いろいろなやり方があると思うが、先行投資をして、商品化したものを売り込むか、要望が来てからそれにそって改良するいろいろなあると思えます。ほかの自治体では整備した工業団地が思うように埋まってなく、業種によっては水を大量に使ったり、煙を出したりなど、企業誘致といっても何でもいいわけではないので、新しい総合計画を作るうえで皆様のご意見を多くいただきたいと思えます。

○日詰商店街の活性化をするために、庁舎の跡地利用を地域の方々と十分検討するという
ことで進めていただきたい。

女優の麻薬問題が話題になっているが、根本原因は教育不足だと思う。常識的には考えられないようなことを行っているのは、十分な教育が足りなかった為に起きた事件ではないかと考えている。後継者が育つような教育を行っていくことを考えていただきたい。あるべき町の姿を伝えてほしい。

【教育部長】非常に重要なご指摘をいただきました。いろいろな教育の段階があると思うが、基礎基本的なことを学ぶのが義務教育の段階です。学校教育で担う部分もあるし、地区、家庭で担う部分もあるので、一緒になって教育を進めていきたいです。

【企画課長】庁舎跡地の利用については商店街活性化のために地元のご意見を聞いて進めてきていますので、重ねてのご意見として承っております。

中央公民館前の雇用促進住宅についてですが、以前は日詰 9 区であったが世帯が増えた為に日詰 20 区になった。新聞報道等でなくなるという話も出ていたが今後はどうなるのか。

日詰 9 区のあたりに最初のころ植えられたケヤキ並木が、毎年枝打ちは行ってもらっているが、歩道の部分に根がきているし、マンホールも正常じゃなくなっているし、民家の

畑にも根っこが入って非常に困っている。全部切れとは言わないから、一本おきくらいで伐採できないか。

【商工観光課長】紫波町内には日詰駅前と中央公民館前の 2 ヶ所ありますが、報道等でご存知のとおり、閉鎖をするということで進められてきましたが、不景気のために職をなくして住むところをなくした方の入居を臨時的に受け入れるようになったので、本来であれば2年くらいで撤去していただく予定が3年間凍結となり、5年後になりました。

凍結前の段階では、住宅を閉鎖するという事で、市町村に対して買い取りの依頼も出ていたが、入居者がいる状態ではいろいろ問題があるので、町としては現時点では購入の予定はないです。今のところは猶予がありますので、この先、雇用促進機構、国とのやり取りをしながら、入居者が困らないような対応を考えていきたいと思っています。

【経営支援部長】担当課が居ないので代わりに答えますが、ケヤキ並木についてですが、議会のほうからもどうするのかという意見が出ていますし、「環境に寄与する木なのだから切るべきではない」という意見と、「切ったほうがいい」という意見があり、環境面からも困っているのが実態です。相当な量の葉っぱが落ちて、近所の皆さんが苦労しているのも聞いています。どちらにしても結論を出していくように努めますのでお待ちください。

間引きの意見は地元の皆さんの最有力意見でしょうか。

全部切るというのも抵抗があるから、1本おきに切るならいいかなという感覚です。

まちづくり座談会は地区によっていろいろな話題があがっていると思うが、情報公開はされるのか。出された意見や、それがどのように反映されるのかを町民がわかるようなものがあればさらに計画がよくなるのではないか。

【企画課長】まずは、しわネット等で主な内容をご紹介させていただきますが、全部となるとしわネットでは足りないので、それぞれの地区の話題をかいつまんで載せることになると思います。記録はすべてとっておりますので、出来るだけホームページ等に載せて情報公開したいと思います。

【町長総括】まずは跨線橋ですが、町には3つありますが、耐震の心配がありまして、万が一落下するようなことがあれば大変なことで、安全性も景観も悪く撤去あるいは補修を行いたいと思っております。撤去してもいいのではという話でしたが、私も賛成です。残せばまた次の世代も苦労しますので、撤去にも3~4億円かかることなので、もう少しお待ちください。

企業誘致についてですが、もしやるとなると町費を投下していかなければならないことです。(企業からは)タダで農地を造成し、さらに助成金をいくらもらえるのかという厳しい条件が返ってくるし、もし誘致が成功しても、いつ撤退するかという不安もあります。そういう点も合わせて町として将来の企業誘致をどうしていくか、考えていかなければならないと思っています。

今、一番の安定した収入源は個人の固定資産税になっています。だいたい企業から得る税金はここ 25 年くらい、2 億円前後で変動はありませんが、個人の固定資産税は年々増えて安定していただいています。ベッドタウンという考え方ではないが、多く町に住んでいただくという策が必要ではないかと考えています。

少子高齢化対策により、住みよい町を作ることが重要だと思います。子育て環境を整え、若い人に住んでいただくことにより、高齢化対策にもつながっていきます。盛岡にも北上にも交通の便がいいので、少子化に対応できる施設、設備を設置し、安心して子どもを預けて働きにいけるような環境を駅前に整備していきたいと思います。

人材育成についてですが、紫波町の最大の課題は優良な人材育成だと思います。小学校 3 年生からの英語教育を始めてから 5 年たちますが、海外との友好関係も築いていったんは出て行ったとしても、また戻ってきて町に貢献していただけるような、優良な人材が育ってきてほしいです。人材育成というのは永遠の課題として取り組んでいきたいと思います。

ケヤキ並木については、ケヤキは町木です。にいやま荘にあった 2 本のケヤキを切る際、「町木を切るとはなんだ」という意見があり移植したのですが、木を切ることにはいろいろな意見があります。ただ、根につまずくなど、安全性の問題もありますので、対応は考えたいと思います。

皆様から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

す。

小学校前の道路から農協の方にも過去 2 回、水が流れてきている。道路のたるんだところから入ってきているようなところもある。がんばってはおられるようだが、なおいっそうがんばって欲しい。

【建設部長】大地町の側溝整備は予算がついていますので、年度内に着工する予定です。赤沢方面から大地町に流れ込まないようにします。次回の総合計画では優先順位をあげて、整備と改修と県への要望も合わせて行いながら進めていきたいと思います。

総合計画と合わせて、星山地区全体をどうしたいかを考えて、川をどうするか考えた方がいい。

【企画課長】町の政策全般に関わる貴重なご提言をいただきました。

国道 456 号で大型トラックが紫波橋から南に向かって走ると、ドンドンとすごい騒音と振動がある。国道事務所に電話しても、道路の近くなので我慢して欲しいというだけで何もない。最近ダンプが多く通るのでどうにかして欲しい。

【建設部長】県管理だと思いますので要望したいと思います。現場を確認し、段差等になっていれば危険箇所でもありますし、現場状況によって対応の仕方が変わってくると思いますので。

水道管の周りの土が軟らかいのが原因ではないか？もう少し固めればいいのでは？

【建設部長】マンホールのところは、少し下げないと、どうしても除雪の際、グレーダーが引っかかってしまいますので。車がそこを通るとどうしても音が出てしまうというのがあります。

【公民連携主幹】下水道のマンホールのところはコンクリートでできているため沈みませんが、周りの土は長い時間をかけて締め固まってしまうため、どうしても徐々に下がっていきます。そのため、数年するとマンホールとアスファルトに段差が生じる場所が多く、そういう場所は補修で対応していくしかありません。

環境についての教育がなされるようになり、環境がよくなってきたのは実感しています。地球温暖化というグローバルな話ばかりではなく、回りの水辺環境を見ても、何十年かでかなり悪化してきているのが実態ですし、その結果として環境が大切だということで、このような取り組みがされるようになったと思います。悪くしてきたのは今の大人社会ですが、これから守っていくのは若い世代で、環境への取り組みを行ってくれているおかげで、逆に大人が子どもたちに教わることも多いと感じています。子どもたちが魚釣りをしているのをみて、魚釣りができる環境が戻ってきたのかなと思うし、そういうことをこれからの若い人たちに教育していくのが必要だと思いますので、引き続き、取り組んでいって欲

しいと思います。

二点目ですが、夢物語として考えていただいても結構ですが、資料にも日詰西地区の開発について書いていますが、日詰商店街の人の出入りが減っているのはさみしいことです。以前はバスセンターもあり、だいぶ変わってしまいました。また少し変わった形でもいいので、何とかできないかと思う。公共機関を利用して移動してきて、町を散策するという意味で、バスの終着駅が日詰商店街にあればと思う。こういう時期だから大きい絵を描いて、長年かけてもそういうのを作ってもいいのかなと思う。国道4号線が邪魔だが、仙台のように大きな横断歩道橋を作り、役場の跡地を商店街へ続く賑わいの場にするなどすれば、人の流れができるのではないかと思う。多少思い切った計画を行ってもいいのではないだろうか。

【環境課長】環境学習についてですが、紫波町では環境について学ぶ場として、4年前から環境マイスター養成講座というものを行っており、昨年度まで64人の環境マイスターを認定しており、来年度には100人を目指しています。その人たちが各地区に出向いて、そちらでもまた環境活動の取組を行っています。それぞれ皆さんが環境に対する意識を持って生活していくことが大切だと思います。

【公民連携主幹】中央駅前を、インフラ整備と市民交流施設を整備し、紫波町の賑わいの発信拠点にしたいという思いで整備を進めています。商店街地区につきましては公民連携基本計画として、町中の町有地を生かすことを民間からの提案も受けながら活用する道を考えていきたいと思っています。紫波中央駅前にフットボールセンターが出来ると、大体年間5万人から10万人の交流人口が見込めるので、そういった方が日詰商店街まで足を伸ばされたときに、もう二度と来たくないと思うか、またぜひ来てみたいと思う場になるかがこれからの開発で大切なことだと思います。まずは、紫波中央駅を降りた際、野原があるのではなく、紫波町にはこういう町があるのだということを町外の人に知っていただくとか、町民にもここに立ち寄りたいたいと思うようなものを作ることが今回の基本計画の柱なので、ご理解いただきたいと思っています。

何かを整備するだけではうまくいかないことも多い。インフラ整備はお金がかかることなので、交流プラザを作るのはいいが、何が本当に必要かをよく考えてやって欲しいと思う。若い人や女子高生が集まって歩いているだけで人が人を呼ぶので、そういうような施設やスペースや話題があればいいと思う。西にも東にもそういう場所が出来ればいいと思います。

国体では紫波町は自転車競技の会場になりましたが、紫波町はいつも自転車だけだと思う。別の種目も誘致してもいいのではないだろうか。

紫波町は自転車の町なので子どもたちの一輪車の全国大会を行ったらいいのではないかと。子どもを呼び込めば、親が来るので倍以上の人が来る。中学校や小学校の自転車大会があってもいいのではないかと。紫波町を自転車の町としてもっと売り込んでいいのではないかと。

か。

【町長】自転車の国体は決定しましたが、ほかの種目もやらないかという打診はうけています。今言われているのは、サッカーの競技場で、本競技場は都南に決まっているが、練習会場や、第二競技場として受入れをしてくれないかという打診は受けています。あと一つくらいは受けないといけないかなと思っています。

一輪車についてはいい案だと思います。これから検討していきたいと思います。小学校には年 1 回、自転車競技場を開放して、サイクルチャレンジをやっていますが、それを数回行ってもいいと思います。一輪車は星山小学校を中心に全国レベルなので、いいアイデアだと思います。

役場職員の方々は、上の人たちはいいが、下の人たちは町民に対して意識が低いのではないかと思うときがある。業者を通して話をしてくれといわれたときがあった。法律上はああだ、こうだとあるだろうけど、そういうことではなく、臨機応変に地域のためにどうすればよいかをまず考えるという意識が薄れているような気がしてならない。

水害の話も一般の人にはどういう対応がされているかわからないと思うので情報発信はして欲しい。役場の外観ばかりよくても中身を良くしなければ意味がないのでよろしくお願したい。

【副町長】常日頃、町民の目線で仕事をするように、指導しています。出来るものは出来る、出来ないものは出来ないという意見ははっきり言えるように、決断を早くとも言っています。今の話に関してはきちんと指導したいと思います。ありがとうございました。

【企画課長】総合計画に関していうと、若い職員に住民の会合に入って、意見を聞く研修をさせています。市民会議等で、分野別の会合において書記をしたり、進行をしたりしながら教育の一環としてやらせていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思っています。

ヒノヤタクシーから北上川の方にかけて工事していたが、東側は今後どうなるのか。

【建設部長】都市計画道路ということで、見通しの悪いところがあったので、見通しが良くなるように交差点の改良を行いました。そこから先は県道で、今回の工事はでこぼこが多かったので舗装の打ちかえが行われました。今度は 4 号線に出るところの構造がよくないので、広げて紫波中央駅まで続くように、公民連携で行うことを考えています。

道路が車のためなのか、自転車や歩行者中心なのかを見極めて欲しい。雪が多いので、排水の関係で斜めにすると、雪道で滑る。日詰商店街は歩行者中心で整備されても良いのではないかと思う。作り手と利用者がうまくコラボレーションされていないのではないかと思う。高齢者が歩きやすい道路造りを行って欲しい。

【建設部長】道路改良は少なくなってきていて、修繕が主になっていますが、紫波中央

駅前につながる道路については、意見が反映されやすいのではないかと思います。参考にさせていただきたいと思います。

紫波印刷の脇で道路が舗装されておらず、道がぐちゃぐちゃになる。一方の人は舗装してほしいというが、もう一方の人は舗装すると水が宅地に入るからやるなという。町長に決断して欲しい。

【企画課長】整備するときは、側溝を整備して、宅地に水が入らないようになどの考慮もされるとと思いますが、場所にもよります。

【建設部長】ここで即答はできないですが、なんとか対処するように確認したいと思います。

開発のひとつの考え方として、紫波町の中での農村集落と商店集落という考え方と、紫波町は盛岡商業圏であり、北上市などのベットタウンとしての考え方の開発を考えるといいと思う。

星山地区に介護施設を造る計画を総合計画に入れて欲しい。

小学校の生徒数が減ってきている。統廃合を考える際、星山小学校に統合して欲しい。そして、小学校と介護施設が同じ場所にあればいいと思います。

児童館を1カ所にすると聞いたがどうなったか。

市民会議の公募は25人だが、応募者すべて採用されるのか？足りるならその判断は？あと数人足りなくなった場合、個別に頼むこともあるか。

合併浄化槽について、浄化槽からの排水は、農業用水、道路側溝、両方がないところはどうか。改良区は排水路ならよいということでしたが、道路側溝には流していいのか。

水路の改善計画については、水路単独で考えるのではなく、基盤整備計画などと併せて一体的に考えるべきだと思う。星山地区の基盤整備計画については十数年前に中止となったが、地域から再度整備したいという声が出てきたときには、町は応援してくれるか。

星山地区は東部地区の要かなと思っている。紫波町としては、小学校を含め、施設配置などをどう考えているか。

地区創造会議が始まったので、総合計画に生かしたいというが、1年間で間に合うかなと心配しています。生かせる場所をどこかにつくって欲しい。

彦部と星山は子どもの人数が少ない。小学校の統廃合は？

【企画課長】市民会議についてですが、25人を大幅に上回るようでしたら足り的なことを考えますが、5グループに分割しますので、1グループで最大10人くらいが限界と考え、割り振りをしていこうと思っています。第一希望から第三希望くらいまで書いていただいて、割り振りしていきたいと思います。回答はあとでもかまわないということですので、そのほかのことにつきまして、改めて回答をすることといたしまして、町長から総括

をいただきたいと思います。

【町長総括】大地町地区の災害につきましては、過去 2 回、大きいものがありまして何回も国土交通省に足を運び、なんとか住宅地への被害を少なくする対応をお願いしてきたところ、暫定的な築堤で対応をしてもらうことになりました。大雨への対応だけではなく、交差点の整備や道路の改修においても、地元住民の皆様の総意が必要ですので、よろしくをお願いします。

日詰商店街と紫波中央駅前の関連ですが、日詰商店街が核となり、対応できないものを紫波中央駅前で補うということで動線をつないでいくことが大きな課題となっていますので、公民連携の中で解決できる方法を考えていきたいと思っています。日詰商店街はまだ昔の風情が残されている部分があります。それを残していく方法で考えていきたいと思っています。民間の団体で、閉鎖店舗を活用してくれる場合も支援していきたいと思っています。

児童館、小学校の統廃合についてですが、小学校は地域の拠点ですので、小学校をなくすべきではないと考えております。ただ、児童館に関しましては、保育園を含めて（東部には）4 つありますが、現在、親御さんからのご要望で早朝夜間延長保育の要望が多く出ております。受け入れには 4 ヶ所では困難であることから、父母の会と相談して 1~2 ヶ所に統合したいと考えております。2 ヶ所くらいであれば、延長保育にも対応できると思います。

大地町地区と中央駅前の関連や、東部地区と大内町地区の関連についてですが、地区の要というものが大地町地区にはありますので、今後、日詰商店街や紫波中央駅前とどういう連携をとっていくかということが大切だと思っています。赤石地区の日詰駅前の開発を行っています。30 億円の投資をしました。町が投資した分、税金でいただいて元を取らないといけないのですが、店をやる人もいなく、かえって、日詰駅前開発をやると店を潰してしまうという方もいらっしゃる。なんとか対応策を考えて、商店を貼り付けることを考えていただきたいと思います。今度の計画の中でも、地域の方々の意見を出していただきたいと思います。農協支所、土地改良区もありますので地域の要として地元の方々にも良くご理解をいただきまして、取り組んでいきたいと思っています。

道路関係につきましては、なかなか進まずにご迷惑をかけているところもございますが、整備を進めていきたいと思っています。

紫波町は財政が厳しいといわれていますが、大きな要因は下水道、水道、道路の整備が進んだ結果です。計画どおりに進めば 24 年度までには公債費比率が 18% 以下になる見通しです。下水道に関しましては合併浄化槽になる所もありますが、ご理解をいただきたいと思います。現在、下水道普及率は 85% で、盛岡、矢巾、紫波が 85% 以上となっています。合併浄化槽導入で、22 年度には 100% を目指して整備を進めていきたいと思っています。

紫波町の公民連携につきましては、民間の力をお借りしながら出来るだけ負担を少なくして行いたいと思います。火葬場の整備も PFI を導入いたしましたが、いろいろな方式を取り入れながら、一時的なお金がかからないような地域づくりを行っていききたいと思います。

す。今後とも、平成 23 年度から始まる総合計画につきましてもご意見をたくさんいただきますよう、お願い申し上げます。

人はみんなが草刈りしていたのを見ていて、居づらくなったのか次の年に鎌を持って出てきた。今では先に立ってやっている。住みよいと人口も増える。

生きていくために近所の人にさせてもらって日詰に買い物に行っているが、1週間に1回でも売りに来てくれるような方法はないか。

【企画課長】以前町内のスーパーで電話・FAXによる御用聞きを行っていたが、今は手間やコストがかかるせいか積極的に行っていないようだ。

【副町長】行政でなかなかできない部分。せっかくの上平沢商店街、必要と考える人が商売してもらえないかと思う。絶対必要と思う。

家に閉じこもって出てこない。デイサービスはお金かかる。コミュニケーションを取れない。

【企画課長】志和地区は佐比内地区と並んで高齢化率 30%と高い。安否確認しながら販売する仕事してくれる人ないものか。

【町長】大事なこと。地域として店がないことは問題。

【経営支援部長】店に行くための巡回バスのような足を確保することも必要かもしれない。

(上平沢商店街に) 6件あった魚屋がなくなった。昔を考えるとずいぶん変わってしまった。馬の蹄扱う鍛冶屋もたくさんあったのに。

これからどう生きたらよいものか、今は百歳を超えても生きる時代、自殺もできないし、日詰など店の近くに引っ越したらいいのかとも考える。

【経営支援部長】朝だけ産業祭りのように朝市をやるとか、軽トラック市なども考えられる。

【副町長】どのくらい希望する人がいるかも調べていないので、そこから対応しなければならぬ。

商工会、商店街大変だけどそういう活動もしなければならぬ。試しにやりたい人はいっぱいあるのでは。

基盤整備により火災の時、消防ポンプ車の(水利)場所がなく、対応が遅れ全焼したことがある。水路上流部で今から10月にかけて水がなくなるが、改良区の理事長に話をしたが聞き入れてくれない。

火災の際にどこにポンプを据えるか計画のようなものはあるか。水路があっても上流が流れていないのは、基盤整備したのがまずかったと思う。

【経営支援部長】町の予算で水路に水を流せるようにした経緯はあるが。

さらに上流の話です。基盤整備ではなく、山王海の水利権の関係で旧堰を廃止したもの

で、冬季間のみ0.2トンだけ流している。

【町長】何軒ぐらいありますか？

升沢地区全戸。

滝名川にポンプ設置する場所がない。

【企画課長】水利権と消火活動について関係機関と調整したい。

(総合計画のために挙げられた)例はどれも大切なこと。我々は高齢なのでどれが先でもいいけれど、協力しなければならないなと思いました。

【町長総括】少子高齢社会など、解決しなければならない課題多い。

買い物する場所の問題について、日詰の街中でも大型ショッピングセンターに押されて同じような問題がある。何らかの対応をしなければならないと思った。試験的にでもやりながらエリアを増やしていくことが必要と思った。

水利の問題について、3年前にいろいろ言われて実施した経緯あるが、まだそういう場所があることを聞いたので、このことは持ち帰って検討いたします。火災への対応も含めた冬場だけではない水利について山王海土地改良区と話し合うようにします。

虹の保育園建築の時、紫波第三中学校、上平沢小と一体になった子どものエリアとして整備を望んだが、それが河川保護活動まで発展して、桜の花見ができるようになった。地域の皆様には感謝いたします。

見として承る。

「郷土の文化や歴史を大切にす町」とあるが、紫波町には今も文化財委員というものがありますね。私は40年前から歴史が好きで、陣ヶ岡の愛護会にも入っている。昭和47年から会長をしているが、愛護会の活動について、文化財委員としての立場から、指導等を受けたことがない。いろいろアドバイスを受けたと思っていても、受けられない。活動内容も分からない。もっと必死に活動する人を委員に選んだほうが良いのでは？町としてはどう考えているのか。

「高齢者に優しい町」とあるが、紫波町に限らずどこの市町村でも若者がいない、子どももない、高齢者ばかり。家庭内でも親子兄弟が協力しない、親子の情が欠けている。昔のように家族が一致団結して仕事も頑張る、団らんもある、そういう形にもっていくのが楽しい町づくり。社会教育、公民館活動が必要。

【教育長】文化財の専門委員は現在も活動している。各委員は、それぞれの分野の専門家に集まってもらっている。その活動内容が、まだ地域の方々には見えない形になっているかもしれないので、活動内容が皆さんに分かるように生涯学習課で取り組んでいかなければならない。文化財を調査するなど活動はしているが、皆さんには伝わっていないようだ。

教育委員会の取り組みについては、原則的には3世代家族が一番いいと思うのだが、世の中が変わってきている。小学校で児童数が少ないのは彦部小学校。戸数は私が卒業したときと変わらないのに、4年生は4人しかいない。私のときは60人近かったのに。なぜなのか考えると、若い人たちがいない。息子も勤めの関係で盛岡に家を建てて住んでいる。孫も盛岡の学校に通っている。核家族化が進み、地域で支えあうことが必要になってきている。地域で少ない子どもたちを守っていかなければならないのでは。

【生活部長】高齢化率25%とよく言われる。高齢化率25%というのがどういうことなのかというと、「父・母・子供・祖父」という家族構成が標準家庭であるということ。紫波町も高齢化率23%。地域社会が成り立たなくなってきたのが現実。

この問題の対策に「これをやれば全て解決する」というホームランは無いと考えている。様々な取り組みを複合的に組み合わせていくしかない。

先ほどの説明で「～町」というようなキャッチフレーズ的なものが提示されているが、先ほどからの答弁を聞いていると、町がその内容を全て否定している。

また、事前に行ったアンケートの結果は示されているが、その結果に対する町のコメントがどこにも載っていない。

「皆さんはどんな町を望みますか？」ということで町が例示している内容は全て総合計画に含まれるべき内容だと思う。これは何のために我々に提示しているのか？まず町が基本構想の素案を作成し、提示してくれれば、我々も意見が出せると思う。

さらに、総合計画は10年計画ということだが、途中で首長が変わった時はどうするのか？

【企画課長】紫波町の課題は雇用だと思っている。それはアンケート結果からも明らか。それに対してどういった切り口で取り組んでいくのが重要。

アンケートの結果は結果としてあるわけだが、今日は、町がどうしたいこうしたいということよりも、水分の人の生の声をできるだけ持ち帰りたいという思いで、我々は来ている。

水分地区ではまだだが、地区創造会議というものがほかの地区では既に行われていて、「うちの地区はこうあったらいいな」という未来のビジョンを作っている。そういった取り組みの中から見えてくるものもあると思うので、こちらの地区でも地区創造会議にできるだけ多くの方々に参加していただきたい。それが良い町づくりにつながる一歩なのかなと思っている。

本日は、町として「こうしたい」というものは何も持ちあわせていないので、とりあえずアンケート結果をお示しして、水分地区の方々の気持ちを率直にお伺いしたいということで来ている。新しい総合計画に関して「町ではこう考えている」というものをお示しできる段階ではない。

ただ、反省点として、過去10年間の取組みの中でなお課題になっているのが雇用の問題だということは認識している。

今回お示したものは、アンケート結果から見えてくるものもあるかと思い、我々なりにまとめた例示ということで、ご理解願います。

私も地区創造会議が1つのポイントだと思っている。今後大事なものは、新しい総合計画策定前に、地区創造会議が開ける体制を作ること。この地区には、関心の高い人、色々な分野に造詣の深い人がたくさんいるので、そういった方々を発掘し、束ねていくことができれば地区創造会議の開催はそう難しいことではないと思う。

蜂神社や、須川長之助さん、藤原嘉藤治さんをはじめ、素晴らしい功績を残した方々、産直等色々な素材がある。そういったものを大事にして地域づくりをしていきたい。そう遠くないうちに、誰かが音頭をとりながら、進めていければいいと思っている。

【企画課長】町でも、地区創造会議を開く前に、今お話いただいたようなキーマンとなる方に、地域の方々を集めていただくなど役割を担っていただくということを考えております。地区創造会議は今年から企画課で担当しておりますので、こちらからもお声がけをさせていただきますが、地区のほうからもぜひ声をかけていただきたい。

地区創造会議については、水分地区でも取組みたいということで、担当課にお話をしたときには、今年はほかの2地区で地区創造会議を立ち上げたので、水分はもう少し待つて欲しいと言われた。

参集メンバーは既にピックアップ済みなので、年内に1回目を開催させていただきたい。

【企画課長】彦部と志和地区で立ち上げてまして、なかなか職員の手が廻らないようなので、もう少しお待ちいただいて、年内には開催できるようにします。

「高齢者にやさしい町」ということで、質問があります。このたび、紫波町でページシステムの実証実験を行いますよね。免許を自主返納した高齢者が、バスで買い物や病院に行くときに、事前に運転(たぶん運転ボランティア)の登録(たぶん社会福祉協議会に)をした方々が、カードを利用できるシステムがあれば良いのではないかと思う。利用するほうも気兼ねなくお願いすることができる。

個人で対応するのではなく、束ね役が1つのところから発信していただけるのであれば。

利用者がいくらかの料金を支払っても良いので、利用額に応じて、利用者にもポイントがつけばなお良い。

【企画課長】詳しいことは把握していないが、可能性はあると思う。後ほど、担当課から連絡いたします。

公民連携の関係で、議会だより 146 号で読んだのですが、町で新しく「オガール」という会社を設立した。事業内容は概ね議会報で理解できたが、以前公民連携の説明を受けた際に、推進協議会や、よんりん舎の話があった。今度の会社は、それらの流れを受けての会社で、交流プラザや将来的な新庁舎建設までも含めたものか聞きたい。

それから、10.7ヘクタールの土地には、道路があり、歩道があり、花壇があり、駅前・中新田蓬田線を含めた形でメインストリート化している。花壇を見ればほとんど雑草。最初に一回だけ除草作業をしているのをみたが、今は草丈が伸びている。せっかくの花壇なのだから、除草だけではなく花を植えるなど、色々な方法があると思う。

この間、アダプトプログラムについて説明を受けた際に、私は環境衛生組合連合会につないでみてはどうかと投げかけたが、担当者は繋いでいないようだ。結果的には、せっかく作ったアダプトプログラムが機能していない。目立つ場所でもあるし、循環型まちづくりを標榜している紫波町ですから、十分機能していただいて、なんらかの対策をして欲しい。

【企画課長】オガール株式会社は町と一緒にあって事業を推進する、町が直接できないことを代行する会社です。

10.7ヘクタールの土地の花壇につきましては、草だらけの花壇ではないかというご指摘でありましたが、希望が丘線、駅側に面した通りの花壇につきましては、区長さんが中心になって地区の方々が管理している。そうした方々には感謝している。

管理されていない部分については、アダプトプログラムなども上手く地域につないで、そうした活動が達成できるように町の方でも取り組んでいきたい。整備が始まりますと、みどりの大通りが出来るので、担い手作りに取り組んでいる。ワークショップを開いて、紫波中央駅前の住民やボランティア団体など多くの方々に集まっていたいて、将来の紫波中央駅前がどうなっていけばよいか、話し合っている。

【農林課長】アダプトプログラムは、本来町・県・国が管理すべき公共用地や道路を、住民の皆様が里子に出すので里親になってくださいという仕組みで、地域にあるものを地域の方々が守っていくというもの。これまで5団体、河川等の管理に取り組んでいただいているが、今年4月以降に2団体が新たに取り組んでいただく。

特にもげやき通りは、今まで日詰11区が取り組んでいましたが、延長上の日詰9区も取り組むということで、少しずつ広がっている。

プログラムの一番の眼目というのは、町からなんとかしませんかと働きかけるのではなく、地域の方々が色々話し合っ、みんなで何とか取り組んでいこうというシステムですので、町でPRして、もっと多くの地区で導入してもらおうと思っている。既に皆さんの地区でも、毎月1回清掃活動をするとか、そういった取り組みをしている。

先ほどの紫波中央駅前については、新しい方法(アダプトプログラム)を説明する機会が無くて、説明をしつつ取り組んでいければと思っている。

私は、高齢者より雇用だと思う。どうしても働く人口が流出していくから、ここの地元で働け

る場所が無ければならない。それに尽きるのでは。それができれば、すべて解決すると思う。

【企画課長】ご意見、ありがとうございます。

「郷土の文化や歴史を大切に作る町」、「高齢者に優しい町」、「子育てが楽しくなる町」について、私の体験談を交えてお話ししたい。

私は勤めの関係で40年間ほど紫波町を離れていまして、37市町村にお世話になって色々な体験をしました。外部から紫波町を見させてもらった感想を一言で言うと「紫波町は非常に恵まれている。」環境・自然・人材、恵まれすぎていると感じる。

ほかの市町村で、優良な農地が耕作放棄地になった。なんで米を作らないのか聞いたところ、作業中にマムシに噛まれたと言われた。噛まれて救急車で運ばれる人は結構いる。集団転作でブロックローテーションをして、農作業をしなくて良くなったお母さん方が1年間温泉に行ったりして、翌年には農作業をやりたくないと言う。農業者年金をもらったとたんに、息子に農業を全部任せて、自分は温泉めぐり。農作業には出ない。それと比べれば、紫波町や水分はすごくいい場所だと思う。

また、南部杜氏、種市の潜り、気仙の大工が岩手県の3大出稼ぎですが、水分の酒屋さんで、杜氏さんが地元のお米を持って行って、仲間を連れてお金を稼いでくる。南部杜氏は紫波町の宝物。よその地域で、自己紹介のときに紫波生まれの南部杜氏という言葉を出すと、納得してくれる。今回、南部杜氏の記念碑を建てるということで、寄付金を募っている。私は定額給付金を充てた。

大学を出て私に、人づくり、産地づくり、町づくりについて手を取って教えてくれたのが当時水分開拓の組合長だった藤原嘉藤治さんだった。今朝、孫を連れて墓参りに行ってきたが、孫を連れて来ているのは私だけだった。私の家では、法事をやるときに必ず和尚さんの送り迎えを婿にやらせている。初めは嫌がったが、親戚から一喝されて、だまって送り迎えをしている。今は良い跡取りになりそうだと思う。

行政から、町づくりはこうですよと掲示されるのも良いですけど、自分たちで出来る事はやって、あとのやれない部分は相談しに行くというのが良いのでは。

【企画課長】外から見た紫波町という事で、いろいろお話いただきました。ありがとうございました。

【町長総括】皆さんから、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。出席者が少ないというご指摘をいただきましたが、それ以上に多くの貴重なご意見をいただきました。

これからは、21世紀にかける紫波町の人材育成は大きな課題であり、それに取り組んでいかなければならない。人づくり、雇用の問題は大きな課題であると思う。人づくりは自分で率先して、次の世代に引き継いでいくことが、地域づくりにつながっていく、それは家庭環境が大事なことでないのかなと思う。そういうところを大きく今度の計画の中に策定していかなければならない。

歴史と文化について、地区創造会議を年度の後半に立ち上げるということで、当地域においては、須川長之助さん、藤原嘉藤治さん、あるいは温泉を中心とした地域起こしが既に始まってお

り、(文化財の)武田家についても既に情報発信されている。そういう点を生かしながら、地域の歴史と文化を残し、伝えていくことが、今後の地区創造会議の中で出てくるであろうと思っている。今後ともそういう点を期待しながら、地域の発展につなげていきたいと思っている。

また、町長が代わった時には(総合計画を)どうするという話があったが、そのために3年計画でローリングをしてまいりますので、総合計画は基本的な計画を作って、あとはローリングで細かい計画を策定してまいります。そうして、1年ごとの計画も11月あたりに策定してまいりますので、大きく変わることは無いだろうと思っている。今後ともそういう点に注視しながら、ローリング計画を策定しながら進めていくということが必要なのではないかなと思っている。

外部から見たとき、紫波町は恵まれているということだったが、中央の方から来る人、沿岸から来る人、そういう人たちと交流しながら、町というのはこうあるべきだということを、外からの風を入れながら、地域を良くして行かなければならない。今後とも、そういう点を生かしながら、どんどん良くしていきたい。資料に掲げたものを全てクリアできれば、素晴らしい町なのだが、なかなかできない。どういう部分を強くしてくのか、皆さんの意見を聞いて取り入れていきたいと思う。

今後とも、貴重なご意見を賜りながら、平成23年度には総合計画を策定したいと思っている。

いしたいです。草を焼くなどはいえませんが、事故があった場合、議会と相談し、役場がどうという話になればそれなりの対応をさせていただくしかないのではないかと思います。なるべく事故が起きないようにお願いしたいものです。ご意見として承っておきます。

災害に強い町ということですが、私も消防団に入っていますが、団員が少なく高齢化が進んでいます。多くが会社員です。ある自治体では役場に一つの分団を作り、有事の時には役場の分団が対応しているところもある。紫波町の消防団にも役場の職員が入っていますが、いざというときに災害現場に人が足りない場合があるので、人材の確保が必要ではないか。定員割れしていて、若い人が入ってこない。

【企画課長】直接の担当がいなくて申し訳ありません。役場でも災害時、職員で対策本部を立ち上げると、対策本部の機能を動かすことでいっぱいになってしまいます。山口県の大規模水害時では、ある地区では役場の人すべて出払ってしまって空っぽになってしまい、本部が機能しなくなったという場合もあります。

大きな災害が起きた場合、紫波町でも同様のケースになってしまうくらい、役場の職員数は決して多くありません。災害の大小もありますのでケースバイケースになりますが、大体の職場では自衛消防隊を作ったりもしていますので、消防団の分団ということにはなっていませんが、自分たちの職場で何か起きた場合にはこのような対処をする訓練は大切だと思いますのでご意見として伺っておきます。

高齢者にやさしい町、医療が充実した町についてですが、4月から県立紫波診療センターが無床化されてしまい、不安を感じている人が多くいると思います。志和地区は最も高齢化率が高く、介護を要する人もたくさんいると思います。地元には百寿の郷やにいやま荘がありますが、介護を要する対象者や町外に通っている人がどれほどいるかは把握していませんが、紫波診療センターの空きベッドを活用した介護施設を町が行うのは考えられないか？県立一戸病院の空きベッドを活用した介護施設を町が運営するという話が出ていましたが、そのようなスタイルでの施設の再利用を考えたらどうか？

【長寿健康課長】県立紫波病院の無床化につきましては、皆さん既にご存知のとおりですが、町としては、町長主導の懇談会を開いて、様々な団体の代表者に集まっていたいで、ご意見を伺っているところであります。空きベッドを活用した介護施設については、特定した県立紫波病院を使うというような方向性は見出されておりません。町民の多くの意見を伺いますと、入院のベッドが10床でもいいので欲しいという意見が多数であり、意見集約しているところです。

学童保育が欲しいという声が多く上がっています。試験的に片寄のこどもの家の準備委員会というのを立ち上げて、昨年冬から検討して、学童保育を試行としてスタートしました。福祉課長さんにも動いていただきました。8人の子どもが参加して試行期間として夏

休み期間だけ行っています。今の親御さんの話を聞くと少子化のために、学校が終わってから一年生が一人で下校しなければならない、冬場は特に、暗い中を帰ってくるのは危ないという問題があります。

また、今、試行している学童の様子をみると、ほとんどが一年生ですが、兄弟げんかのようなことをして仲直りしている姿を見ると、大切な経験が出来る場だなと感じます。というように、いろいろな意味で学童の重要さを感じています。

片寄小学校は80人を切り、少子化が進んでいます。これから小学校はどうなっていくのか、学童の充実についてどのように考えているのでしょうか？

【企画課長】学童保育については、現在試行ということで夏休み中だけ運営しているのが福祉課とともに取組の結果をみて、町としてもどのように対応していくか考えていくところだと思います。

【教育部長】小学校については複式学級になったとしても、残したいと考えています。小学校は子どもたちの教育という場という役割のほかに、地域コミュニティの場でもありますので統廃合は考えておりません。

○広域農道のノリ面の草刈を行っています。排水路に3mないし5mのノリ面があり、草刈が大変です。先日新聞で、鹿妻穴堰土地改良区と紫波町役場と農協で連携するということですが、その内容を教えてください。水路の維持管理は？

【産業部長】土地改良区等との連携ですが、国からの補助金もありますが、全水路を改良区だけで維持するのは難しく、地域の方のご理解もいただきながら協働の力で維持管理を行うという今年で10年目の事業です。地域の企業や町内会と協定を結び、水路の草刈や美化運動、最近では桜の植樹を行いました。植えるだけでなく、草刈と保護維持管理もやっていただくということになっています。

水路の管理やノリ面の草刈については、農地環境事業で国や県の補助金や町のお金を積み立てており、様々な事業に利用できるものですので、ぜひ草刈等にもご活用していただきたいと思います。

雇用の確保というのが問題になっています。紫波インターの近くに活躍している企業もあれば撤退した企業もあります。業種によっては不況にあおりを受けているとことばかりではないと思いますが、インター付近の再整備を行い、働く場、企業誘致を図るといいのではないかと？インター周辺に空き地がいっぱいあるから活用できないか？

【商工観光課長】雇用の場の確保は多くの方々からご意見をいただいております。紫波町の誘致企業は昭和40年代に多く立地されましたが、その後、いろいろな経緯がありまして、昨年にはニチコン朝日さんが工場閉鎖するなど残念な状況です。

盛岡広域市町村懇談会では企業誘致部会という組織があり、この中でも誘致活動を行っています。今年度は8市町村出身の企業者や在京の企業人を集めた産業人会というのを設

立しようと準備を進めております。その中でいろいろな企業誘致関連の情報交換を行いながら積極的に働きかけを行う準備中です。すぐに成果が出るものではないので、長い目で見ていかなければならないと思っています。

集落営農について、数年後、集落が破綻したとき耕作放棄地が増えるのではないかと法人化するにあたり、町ではこの先のシミュレーションはしているのか？

【産業部長】集落営農の破綻は想定していませんが、米価と減反がなくなったときはどうするかというシミュレーションは行っています。集落の農業をどうやって維持していくか、集落の環境を守るということは、農業を守るとのことだと思っています。

紫波町の場合、水稻中心の農業ですから、いかに水田農業を維持していくかが重用だと考えています。集落営農なり、担い手を確保していくことが私どもの役目だと思っていますので、シミュレーションも大切ですが、日々の政策の中で様々な支援を農協とともに一緒に行っていきたいと思っています。

昨年、紫波町でコミュニティ FM の研究会というのがあって参加したのですが、情報ネットワークということですが、今、紫波町には有線放送がありますが、加入率は 40% くらいと聞いています。例えば災害があった場合、有線放送では加入率が低いので伝わらないということで、コミュニティ FM の活用ということで研究したのですが、将来的には設置する方向なのか？情報伝達手段は作っていかねばならないのではないのでしょうか？

【企画課長】コミュニティ FM 導入の発端は、平成 14 年の災害を契機とし、情報伝達手段として FM 放送もあるなということでしたが、最近では様々な情報伝達手段が確立されておりまして、例えばエリアメールという形で、町から皆様がお持ちの携帯に情報メールを送るということも出来るようになってきています。町としてそのようなシステムに加入して、伝達手段を増やすということは考えています。

コミュニティ FM 局を町が運営することは出来ませんし、任意の団体や NPO など民間の組織がきちんとできませんと、運営できないので、今すぐ導入は難しいと思っています。母体となってくれる民間の団体があればそれを支援していくという形を考えていますが、具体的な時期というのはお答えしかねるところです。できるだけ安価に出来るものとして、例えばミニ FM など免許なしで行えるものもあるので、何かそうした方法なども探しながら、FM 放送も取り入れられたらと思っています。

町づくりも非常に大切だが、人づくりもあるのではないかと。若い方や町の職員が意欲をもって働けるような環境にして欲しい。職員が 3 年後、5 年後の目の前の仕事だけでなく、長期構想をもって、職員に期間を与えて勉強する機会をあたえて意欲をもって仕事出来るように配慮をしていかないといけないと思う。

西部地域開発促進協議会という団体があるようだが、この団体の趣旨は？

部落単位に役場職員がいるとは思うが、その人たちに意見収集をしてもらえば地区懇談会の経費を削減できるのではないか。役場職員が地区の役員に参加すれば、おのずと問題点も見えてくるのでは。

【企画課長】240人程度の町職員がいますが、行政区は130近くあるので、すべての行政区に職員がいるわけではないです。おっしゃる趣旨については理解いたしました。今ここに参加している役場職員は、何かの地区の役員にも参加しています。もし、何もやっていない職員がいれば、引き継いで行きたいと思います。

【北条議員】紫波町の西部地域開発促進協議会というのは、志和と水分地区であり、その地区の町議会議員、農業委員、農協、土地改良区役員、行政区長の代表等々により、志和・水分地区の発展を役場に陳情していくというものです。補助金なしで会費により運営しております。

しわネットに町長への手紙という用紙が入っているが、去年かおとし、利用して意見を出しましたが、町長はご覧になってますか？担当課長からの返信をいただきましたが、できれば町長からも一言入れて欲しいです。

【町長】すべてに目を通しています。

【町長総括】人数が少ないながら多くの意見をいただきました。消防団員の確保についてお話がありましたが、地域を見たときに高齢化しているのが現状でありまして、若い人の確保は消防団として非常に大きな課題であると思っています。今、職員採用の際も、出来るだけ消防団に入るように指示していて、だいぶ職員も団員になっていると思います。役場内で自衛消防団を作るのは、もう少し研究してからでないかと危険ではないかと思いません。出張等で不在のときも多く、作ったとしても効果が出るのかなという感じもあります。やはり、地域の団の充実ということは町としても考えていかなければならないと思っています。

医療関係ですが、紫波町は4月から無床化されて困っています。診療も全体が午前中、午後は外回りになっており、これも困っています。隣のいやま荘では日曜日にお亡くなりになった人がいたのですが、紫波地域診療センターに電話したら、盛岡の県立病院まで運んでくれといわれました。死体は救急車では運べませんので、運ぶのが無理であれば死亡診断書は翌日ということでしたが、これがもし、金曜日の夜であれば2日間もそのままおかなければならないという重大なことになってしまいます。

診療については、23団体の皆さんと話し合っ、将来に向けてどのようなシステムがいいのかということをお勉強しながらこれらに対応していきましょうということになっていますので、地域の人たちとも話し合いながら模索していきたいと思っています。

片寄小学校については少子化が危惧されています。赤沢地区でも長岡地区でも複式学級

については危惧されています。将来的に何らかの方向性を決めていかなければならないのですが、小学校を無くしてしまうと地域がますます疲弊し、高齢化に輪をかけてしまうので残して行きたいと思っています。ただ、保育園は統合していかないとやっていけないと思っています。東部地区には4つの保育所がありますが、一つ一つで早朝や夜間の延長保育を受け入れるのは本当に無理ですので、1つか2つにして、延長保育に対応していくということを考えています。小学校については現状維持をしていきたいです。

人づくりについてですが役場職員は3年から5年で職場が変わるということがされてきましたが、専門性をもって仕事をしなければならぬセクションもありますので、そういったところを見極めながら人事異動をし、積極的に人づくりをしていかなければならないと思っています。

当町におきまして、小学校3年生からの英語教育を行っていますが、世界で活躍できる人間を育てるためには、英語教育は貴重な学習ですので教育長と相談しながら早々に取り入れてきました。来年度から全国の小学校で、3年生からの英語教育が始まりますが、これは文部科学省が紫波町の実情調査をして、その方式がこれから全国でされる英語学習になります。そういう点では紫波町は恵まれた学習環境にあると思います。

こういった、人づくりに関しては、例えば循環型まちづくりを平成12年から取り組んでまいりましたが、当初は環境でメシを食べるのかという話も出ましたが、今ではローカルな事業になってきています。地域計画の中でも、今までは浸透させる方式でしたが、来期は数値目標を明記し、それをクリアしていく計画をたて、トップリーダーとしての意識を保有するという意識をもった人づくりをしていかなければならないと思います。やるなら一番先にやれと職員には常に言っています。そういう意識の中で人づくりを行っていきたいと思っています。

町長への手紙についてのコメントについてですが、私がすべてを熟知しているわけではないので、専門の部分については担当の課長からコメントを出してもらうという場合がありますし、あるいは直接出す場合もあります。案件により、そういうことになりますので、あしからずご意見を送っていただきたいと思います。

今日はたくさんの貴重なご意見をいただき、厚く御礼を申し上げます。平成23年度からの新しい総合計画につきましては、今後とも皆様方のご意見をいただきたいと思います。ますますの地域発展を祈って、私どもも一緒になってそれを支えていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。

PFI 浄化槽事業でポンプアップした排水が、夏場は臭気が発生し、冬季は凍結するところがある。土側溝では許可できないと聞いていたが、町道では許可しているのか。

【建設部長】平成 18 年から PFI 浄化槽事業で進めている。現在計画戸数 300 戸に対し、90 戸が浄化槽で整備となっている。放流先が土側溝だと許可されないのは県道の場合である。町道の場合は土側溝でも許可しており、適切に管理できることとして、例えば放流により土が流れないように手当をしていれば良いこととしている。あまりに汚れていけば調査して対応する。

自家水道のため濁りが発生し、町水道を待っているところがある。いつ整備されるか。396 号から彦部へ向かう道路と 396 号の南側で 2 軒のみ町水道。20 軒くらい自家水道のようである。

【企画課長】水道事業所に対応するよう伝えます。

紫波川井線の赤沢小学校西、旧道へ向かう近くに 10m ほど歩道がないところがある。<藤原議員>土地の所有者からの了解が得られず歩道が整備されないままになっているもの。小学校の PTA でも所有者に要望したが了解してもらえない。

【企画課長】確認して対応します。

【町長総括】

若者が定着するような町づくりについては、農業で定着できなければならないと考えている。当地区ではワイナリーでお世話になっており、年々ワインの質も向上している。将来は 6~7 万本の生産とし、生産から販売までできるようにして所得向上につなげたい。若者が醸造にも携われるようにしたいと考えており、来年ワイナリーからオーストラリアのスタンソープに派遣しワイン文化、醸造技術を取得させ充実させていきたい。

紫波川井線について、安全施設は充実させたい。

ゴミの有料化は他自治体で行っているところもあるが、当町ではリサイクルに重点的に取り組んでいきたい。紫波町のゴミ焼却費用が 4 億 5 千万円と小学校 1 校の建設費用に相当するので、これを少しでも節減したい。

上水道未整備については、早期に取り組むよう担当と進めていく。

人口減少、高齢化についてはご指摘のとおりですので、様々な分野において横断的に取り組む必要があると考えます。

【産業部長】農業改良普及センターは空いてからしばらくたつが、復活について要望しているが盛岡農業改良普及センター自体の職員も減少している状況から難しいと思われる。県では施設を処分したいとの話もあるが無償ではないので、他の計画も考慮しながら検討していきたい。

循環型農業の話ではなかったが、町全体の循環型については農林業、資源回収について目標数値を定めて毎年検証しながら進めている。えこ3センターの生産体制も整い、世の中の流れも化学肥料一辺倒から有機肥料も見直されているところ。これに関連付けて米価低下もくいとめたい。

【企画課長】財政の歳入歳出について、地方交付税は歳入全体の34%を占めている。これは「親からの仕送り」ではなく自治体固有の財源と捉えている。国が地方に行ってもらっている仕事の割合は6:4だが財源割合は4:6となり仕事に応じて当然いただくべき財源であると考えている。一番交付税が多いときで49億円、現在は39億円と10億円低下している。国の景気対策で地方交付税自体バブル的な時期もあった。町税の方が比較的安定している財源。

企業誘致による法人町民税は平成元年から多いときで2億3千万円で、現在は1億3千万円となっており、タバコ税1億5千万円と比べても税としては多いものではない。むしろ雇用の場として考えた方がよく、個人の町民税として税収に反映されている。町税の半分を占めるのが固定資産税なので、(中央駅前を)住宅地として整備するのではなく売却してしまう意見であったが、一時的な収入にしかない。むしろ住んでいただいて固定資産税として歳入を見込んだ方が良く考える。

商店街の活性化について、「人がまちをつくり、まちが人をつくる」というが紫波町の場合は日詰商店街となるが、道路を整備し「歩きやすくなった、買い物しやすくなった」との声を聞く。しかしシャッターを下ろしている店が年々増える一方、大型店が町内に5店もある。競合、競争ではなく共存できないものか。行政として今後の方策として何か考えはあるか。

また、文化施設の建設について、図書館は平成23年度完成の見込みと大変喜ばしい。加えて人が知識、教養を高めていくには伝統文化を守り後世に伝えていく施設が必要と思う。そのような構想は考えているか。

【企画課長】商店街の活性化についてはご指摘のとおりであり、国勢調査の結果では郡山駅について平成7年は人口733人、世帯数239世帯であったのが平成17年は721人、世帯数276世帯と世帯数が増えている。一人住まいのアパートなどが増えていると思われる。紫波中央駅前と日詰商店街が一緒に良い方向になるように考えている。町営住宅を日詰商店街の方に移すことについては地元の理解が進まない状況。民間デベロッパーによる開発

もあるようだが、それにより商店街の利用もある程度見込まれる。

しかし、(日詰商店街が)大型店とは品そろえ等、真っ向から勝負するのは難しい。生活に身近な商店街として生き残りを考えていくべきと考えている。そこで庁舎移転後の跡地利用について例を提示しているが、まだ受け入れていただけてはいない。しかし、引続き協調しながら進めていきたい。

【産業部長】商店街の活性化は定住人口と交流人口を増やすものであるが、商店街の子どもの数も減り紫波中央駅前の子どもの割合が増えている。町家の構造上日当たりも良くなく定住人口の増加は見込めないの住宅整備等により増やしていきたい。

交流人口については商店数が減り消費者の選択肢も減っていく、自ら商店を経営できないときは貸し出すということも一つの手段であるがなかなか進まない。情報交流プラザ内にも消費者を呼び込むことを考えており商工会、商店会と調整しながら進めていきたい。日詰商店街の活性化計画を数年前に策定しているが、今年度検証しながら進めていきたい。

【企画課長】文化施設については無形文化財を伝えることは情報交流プラザで対応できると考えているが、有形文化財については次期総合計画の中で考えていきたい。

【教育長】図書館は本だけでなく視聴覚展示について考えたい。矢巾町との間で相互利用できることとしているのでホールは使うことができる。美術館、音楽ホールは現状では予算上難しいと考えている。むしろ既存施設の補修、維持を考えたい。

今までの総合計画 10 年間でどのように変わってきたのか。できなかったものはあるのか。その点を次の計画策定に必要ではないか。

住みよい地域社会の形成ということでコミュニティ活動による連帯感を高めていくことが必要。私は紫波中央駅前の交流センターは必要と考える。

石油依存しないエネルギーによる産業振興を考えていく必要がある。

歳入の 34%が地方交付税には先ごろの補正予算も含まれているのか。地方分権による税源移譲はどのように変化してきたか。

【企画課長】計画の達成度の検証は大切と考えているが、分野が広すぎて全てをこの場で示すのは難しい。後ほど半年ほどに分けてしわネットで示したい。

快適な地域の形成は、主役が地域の人であるのが指摘のとおりです。地区創造会議による赤石ならではの未来のビジョンも総合計画に取り入れていきたい。

石油に依存しない産業も、循環型取組みの反省点も含みながら考えて行きたい。

地方交付税には補正予算分は含まれていません。交付金・補助金は国の政策により変化するもの。交付金・補助金が徐々に交付税に含まれつつあり、実質的に減額となっている。

犬淵工業団地の除草はカメムシ防除に必要

一番関心のあるのは雇用の場。せっかく学校に通わせても働く場がない。町内の工業団地議会の質疑でも町長が答弁しているが一向に進展しない。犬淵工業団地はまだ 10 ヘクタ

ール空きがあり、その他含めて 30 ヘクタールとなる。経済危機であってもあきらめずに進めてもらいたい。

スポーツの盛んな町として地域総合スポーツが県内でも進んでいる方だと思われるが、より紫波町に密接したものとして計画の中で考えて欲しい。

赤石は歴史的な遺産が多い。昨年の講演会で赤石の地下に平泉に匹敵するような遺跡が眠っている可能性も言われていた。下川原遺跡では大きな活動の跡が見つかった。小路口での調査が進んでいるが同じようなものが見つかるかもしれない。赤石の歴史遺産を計画に盛り込んで欲しい。

庁舎建設は町民が誇りを持てる町のために必要であると考えます。

【産業部長】犬淵工業団地の除草の件は調べて対応します。

雇用の場、企業誘致については県の窓口を通して、県北や沿岸また産業集積として北上等に力を入れているので、話が回ってこない。またあっても土地建物を町が全て負担しないと誘致できないような状況です。また現在立地している企業が継続していくことも必要で、企業との情報交換の密度を高めて行きたい。

【教育長】遺跡からの発掘物を整理、展示するのに苦慮しているのはどこの自治体も同じような状況です。発掘したものを小学校に展示して子どもたちや地域の方々にも見せて歴史学習の一環としている。

また、町民が誇りをもってという意見がありましたが、校歌を大切にすることもその一つと考える。

【町長総括】

日詰駅前開発計画については地権者の多くの方々理解を得、おおむね平成 22 年度で完了するが、これからこの地域をどうして行くかが課題の一つ。赤石地区の拠点となるような施設、商店街の形成を計っていかねばならない。新総合計画の中に地区創造会議の意見を集約していかねばならない。

職員が沢山いるのだから計画は町長と職員が作ればよいとのご意見もあったが、今の時代は広く意見を寄せていただき、理解していただいたうえで実行するものとなる。前回総合計画策定時は 7 割近い方から環境が課題ということで進めてきた。

雇用の場、企業誘致については厳しい状況であるが、そのような中で安定しているのは地場産業なので、そちらに特化していかねばならないと考えている。企業誘致もさることながら盛岡～北上市で 60 万人が住む中にあることから、住環境の整備を行うべきと考えている。